



第41回 UN/CEFACT バンコク・フォーラム 報告

JTREC
板垣 和芳

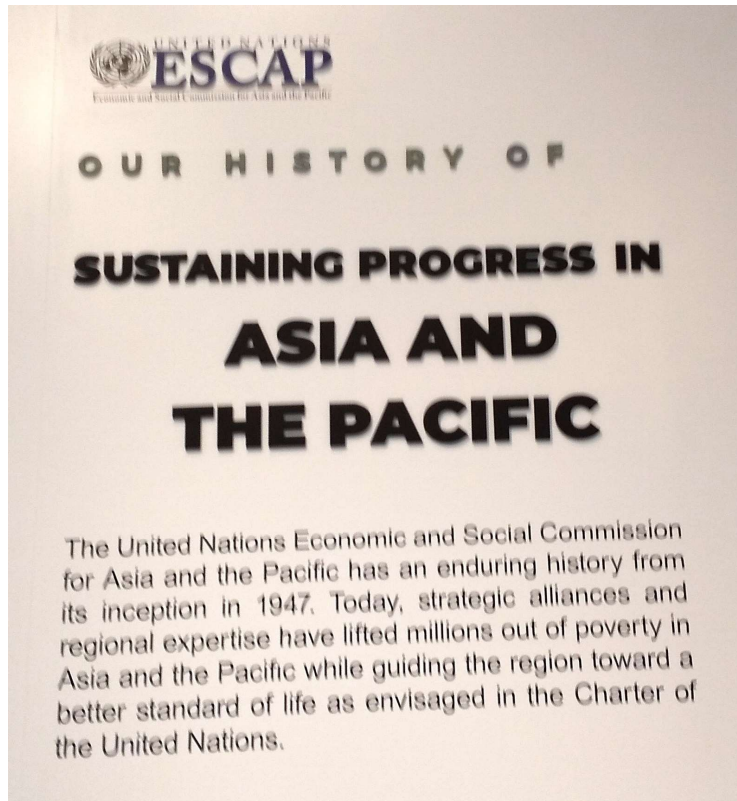
UNECE ESCAP
41st UN/CEFACT FORUM
2-4 OCTOBER 2023 | 10:00AM-18:00PM | BANGKOK | THAILAND

ESCAP Building





OUR HISTORY OF SUSTAINING PROGRESS IN ASIA AND THE PACIFIC



ESCAP

OUR HISTORY OF SUSTAINING PROGRESS IN ASIA AND THE PACIFIC

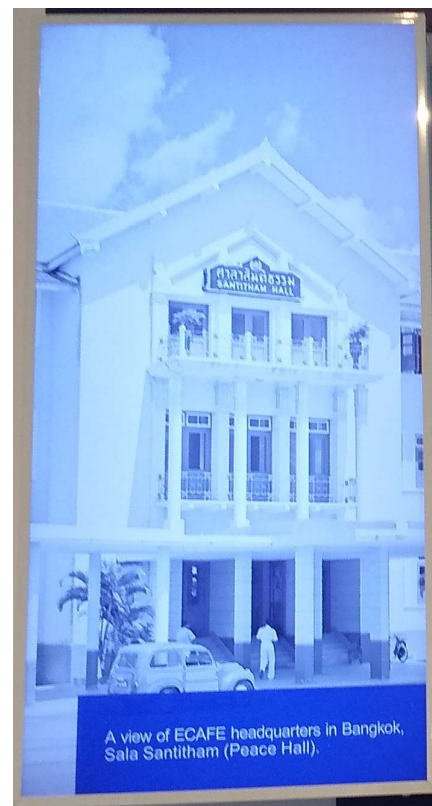
The United Nations Economic and Social Commission for Asia and the Pacific has an enduring history from its inception in 1947. Today, strategic alliance and regional expertise have lifted millions out of poverty in Asia and Pacific while guiding the region toward a better standard of life as envisaged in the Charter of the United Nations.

ESCAP

アジアと太平洋における持続的な進歩の歴史

国連アジア太平洋経済社会委員会は、1947年の発足以来、永続的な歴史を持っています。現在、戦略的提携と地域の専門知識により、アジア太平洋地域の何百万人もの人々を貧困から救い出し、地域をより良い生活水準へと導いています。国連憲章で想定されています。

ECAFE is established in Shanghai, later moves to Bangkok in 1949



In 1947, the Economic Commission for Asia and the Far East (ECAFE) is established in Shanghai. It later moves to Bangkok in 1949.

1947年、アジア極東経済委員会 (ECAFE) が上海に設立されました。その後、1949年にバンコクに移転しました。

Programme

Programme

DAY 1 MONDAY, 2 OCTOBER 2023			
Time	Domain	Event	Room (capacity)
09:30 – 10:30	All	Newcomers' Session and Introduction to UN/CEFACT Standards Development	H1 (20)
09:30 – 11:00	TPF	Trade Procedures Facilitation: Update on Ongoing Projects	MR.B (28)
10:30 – 12:30	Agri & T+L	Introduction to the Critical Raw Materials (CRM) Traceability and Sustainability Project	H1 (20)
10:45 – 11:00	Coffee Break		
12:30 – 13:45	Lunch Break		
13:45 – 15:15	All	Forum Opening and UNECE-ESCAP Conference: Progress and Way Forward on Digital and Sustainable Trade Facilitation	MR.A (100)
15:15 – 15:30	Coffee Break		
15:30 – 17:00	All	UNECE-UN/CEFACT-IOC DSI Conference: From Documents to Data in Trade Accelerating Adoption and Fostering Digital and Green Transformations	MR.A (100)
17:00 – 17:15	Group Photo		
17:15 – 19:15	Welcome Cocktail Reception		

DAY 2 TUESDAY, 3 OCTOBER 2023			
Time	Domain	Event	Room (capacity)
09:30 – 12:00	TPF	Trade Procedures Facilitation: Recommendation 43 Project Launch and Brainstorming of New Projects	MR.B (28)
10:00 – 13:00	eData	eData Management: Update on Ongoing Projects	H1 (20)
10:30 – 12:30	Agri & T+L	Critical Raw Materials (CRM) Traceability and Sustainability Project: Focus on Mid-stream Asian Supply Chain Actors	MR.A (100)
10:45 – 11:00	Coffee Break		
12:30 – 14:00	Lunch Break		
12:45 – 15:30	TPF & Agri	Workshop on Business Requirement Specification: Trusted Product Conformity – Towards Digitally Traceable Quality, Safety, Social, Environmental Data for Products	MR.A (100)
14:00 – 17:00	All	ESCAP-ADB / ROC-TF Workshop: Emerging Developments and Opportunities in Green Trade Facilitation	H2 (24)
14:00 – 17:00	T+L	Transport and Logistics: Update on Ongoing Projects	H1 (20)
15:15 – 15:30	Coffee Break		
15:30 – 17:00	F+P	Finance and Payment: Update on Ongoing Projects	MR.B (28)

DAY 3 WEDNESDAY, 4 OCTOBER 2023			
Time	Domain	Event	Room (capacity)
09:30 – 12:30	T+T	Travel and Tourism: Update on Ongoing Projects	MR.B (28)
09:30 – 12:30	T+L & TPF	Cross-border Conference: eTrade Journey: Revolutionising Global Commerce through Digital Negotiable Transport Documents	MR.A (100)
09:30 – 13:00	SWD	Single Window Conference: Sharing Implementation Experiences and Best Practices	H1 (26)
10:45 – 11:00	Coffee Break		
12:30 – 14:00	Lunch Break		
14:00 – 15:30	SPED	Specifications: Update on Ongoing Projects	MR.B (28)
14:00 – 16:00	SWD	Single Window: Update on Ongoing Projects	H1 (26)
14:00 – 17:00	All	ESCAP-ADB / ROC-TF Workshop: Emerging Developments and Opportunities in Green Trade Facilitation	H2 (24)
15:15 – 15:30	Coffee Break		

DAY 4 THURSDAY, 5 OCTOBER 2023			
Time	Domain	Event	Room (capacity)
09:30 – 11:30	All	ESCAP Workshop: Cross-border Paperless Trade: Lessons from China, Mongolia and Republic of Korea	H2 (24)
09:30 – 12:30	SCPD	Supply Chain and Procurement: Oil Light Project Meeting	MR.B (28)
09:30 – 12:30	SWD	Single Window: Cross-border e-Commerce and Single Window Project Proposal	MR.A (100)
10:45 – 11:00	Coffee Break		
12:30 – 14:00	Lunch Break		
12:45 – 13:45	T+L	Lunch Event: Navigating the Digital Wave: Evolution of Digitalization in the Maritime Industry	MR.A (100)
14:00 – 16:00	All	Forum Closing	MR.A (100)



第41回 UN/CEFACT バンコク・フォーラムの特徴

- Closing Sessionで紹介されているように、in-person参加者数 304、online参加者数 204、60を超える参加国、23のSession、19のUN/CEFACT projectが議論され、8の新たなproject提案が披露された。
- こうして盛況なフォーラムであったが、台湾のin-personおよびonlineでの不参加という想定外の事態も発生した。
- 参加者は以前のようにドメインごとに部屋を割り当てられて報告、議論するのではなく、それらは所定の会場でのセッションで行い、あとは各自興味あるセッションに参加する形となった。
- ESCAP はUN/CEFACTから開催を託され、成功裏に収めるようとする心遣いが感じられた。
- ESCAP はこの機会に自己の活動について広く理解が得られるよう、ESCAP主催のセッションを開催し（例えば、Day 4 09:30-11:30 ESCAP Workshop: Cross-over Paperless Trade）、十分内容のあるものであった。
- 講演者は、in-personとonlineがほぼ相半ばした感があるが、onlineでの講演も画面が大きく聞き取りやすいこともあり、違和感なく受け止めることができた。
- 来年春開催のジュネーブ本部でのフォーラムは、開催期間が3日間に短縮された。
(29 April - 1 May 2024, Geneva)
- セッションへのログインは、参加者の便宜を図ろうとカレンダーを使った形式が採用されたが、戸惑いを感じた参加者もいたと思われる。我々も予めログイン方法を察知して、会員に周知したほうがよいと思われる。
- 音声書き出しアプリで、リアルタイムに講演を書き留めている風景も見られた。今後AIの進歩によりこの傾向は強まるものと思われる。



セッションでの講演の様子

Day 4 09:30-11:30 ESCAP Workshop: Cross-over Paperless Trade



第41回バンコクフォーラム

旅行・観光部門 公開セッション 議題

2023年9月25日
起草：サチン・メータ
協力：板垣和芳
および アンソニー・チェン





観光・旅行部門出席者

04 October 2023 9:30 - 12:30

- 日本：板垣和芳 (in-person)、志方紀雄 (online)、鈴木耀夫 (online)
- オーストラリア：Ian Watt (in-person)
- インド：Sachin Mehta (in-person)
- バングラデシュ：Jahidul Hasan (in-person)、Gopal Debnath (in-person)
- ドイツ：Gerhard Heemskerk (in-person)
- Adrian、Briyan's OtterPilot、Edward Leite、Eduardo's Otter... (それぞれonline)
- 開催関係者：Jie Wei、Samolwan Pingmuang

世界の旅行・観光の動向と IT技術の活用

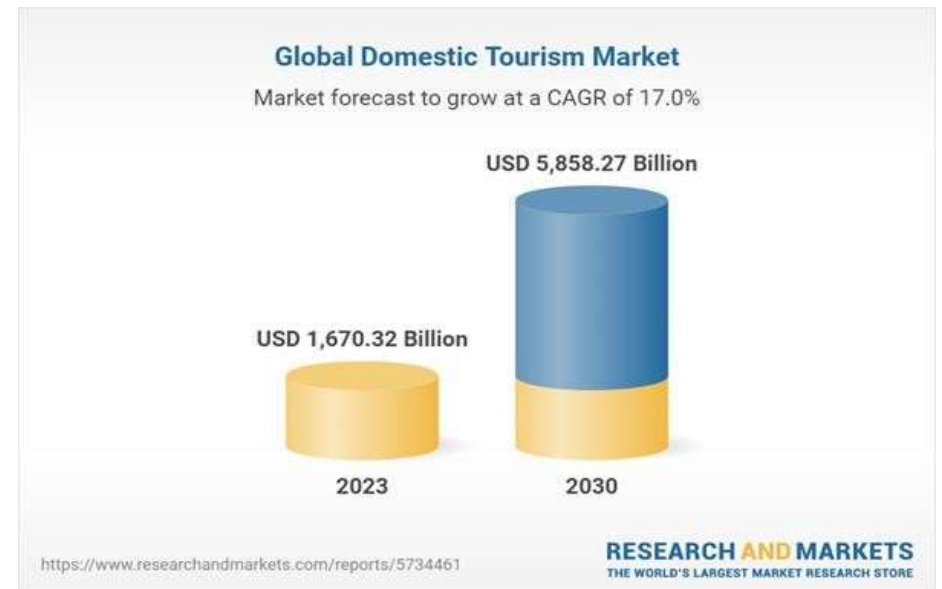
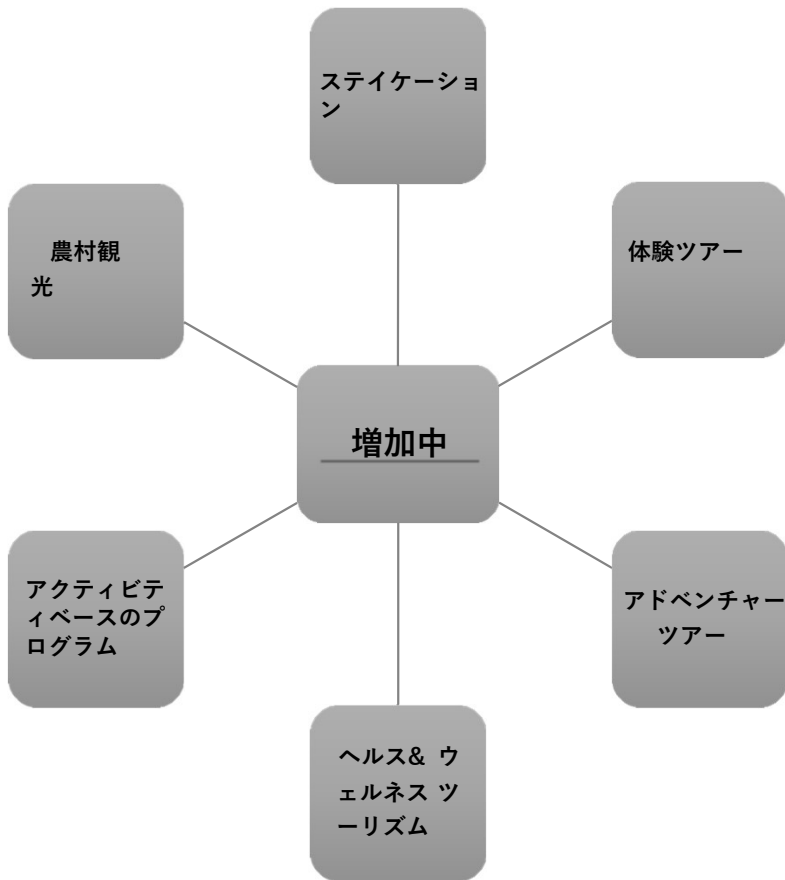
サチン・メー
タ
コーディネー
ター
旅行・観光部
門



**41st UN/CEFACT
FORUM**

2-5 OCTOBER 2023 | BANGKOK | THAILAND

• 新型コロナウイルス感染症以降の国内観光活動の増加:



➤ 小規模宿泊施設（SLH）プロジェクトの成果は、国内観光客の増加に見られます。

● 新型コロナウイルス感染症以降の国際観光：

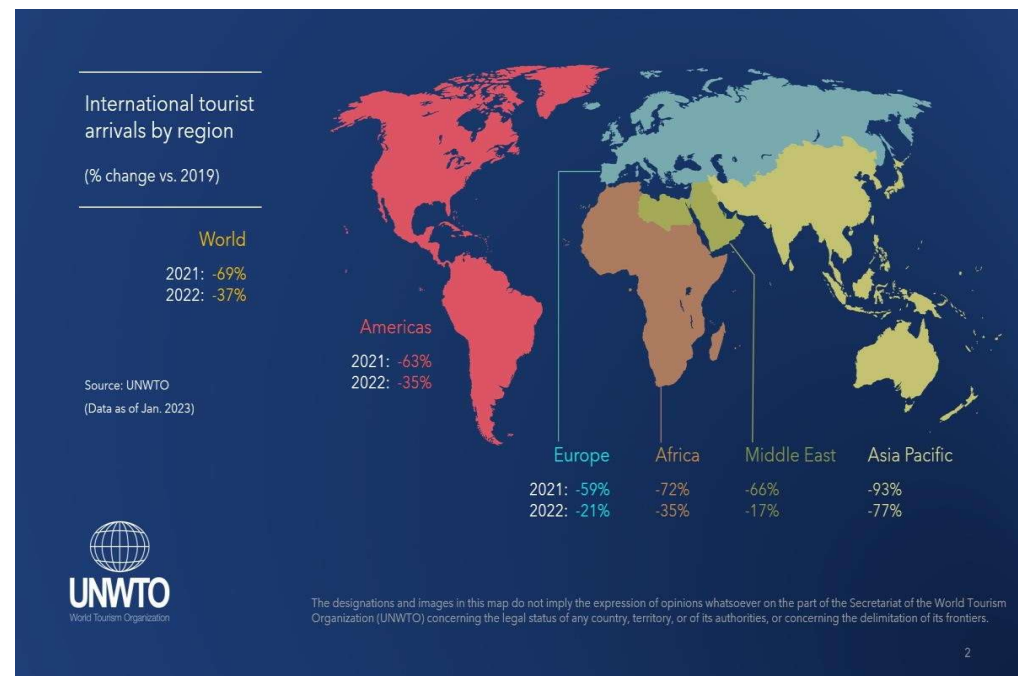
2022年の国際観光業は、大規模な抑圧された需要と多くの国での渡航制限の解除または緩和を背景に、予想を上回る好調な業績を記録しました。



UNWTOの2023年のシナリオによると、今年の国際観光客の到着数はパンデミック前の水準の80%から95%に達する可能性があります。



しかし、厳しい経済環境に対応して、観光客はますますお金に見合った価値を求め、家の近くを旅行することが予想されます。



• 持続可能で責任ある観光の増加:



• 情報技術の利用の増加:

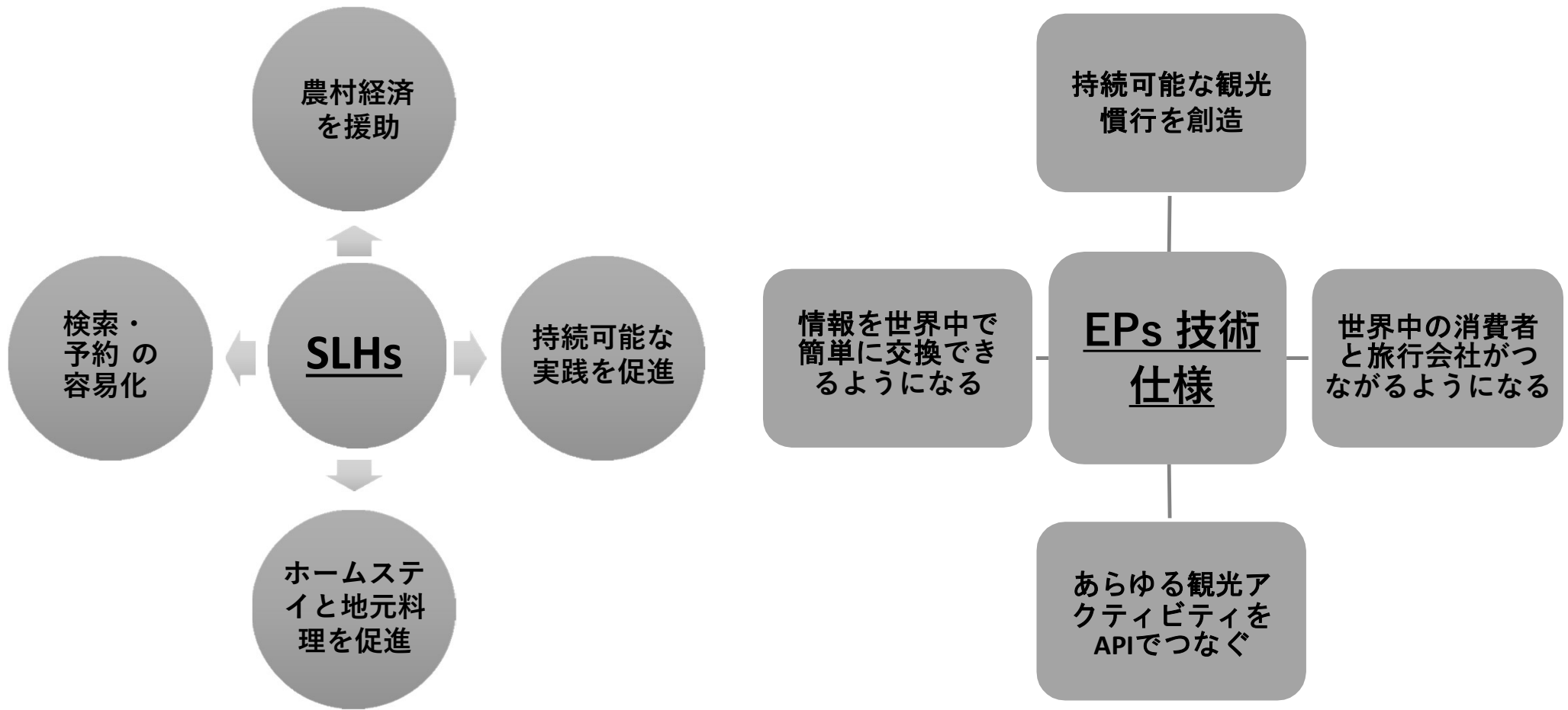
- **非接触型トラベル テクノロジー:** 非接触型テクノロジーは依然として業界の主要なトレンドです。これには、非接触チェックイン/チェックアウトプロセス、ホテル客室へのモバイルキーレスエントリー、タッチレス支払いオプションが含まれます。これらの対策は便利なだけでなく、健康と安全にとっても重要です。
- **健康と安全技術:** 健康と安全に対する懸念が続いているため、旅行業界は旅行者の健康を確保するための技術への投資を続けてきました。これには、健康スクリーニング アプリ、タッチレス セキュリティ スクリーニング、強化された清掃手順が含まれます。
- **拡張現実 (AR; Augmented Reality) と仮想現実 (VR; Virtual Reality):** 旅行体験を向上させるために、AR および VR テクノロジーの使用が増えています。旅行者は目的地、ホテル、観光スポットの仮想ツアーに参加でき、予約前に十分な情報に基づいた意思決定を行うことができます。



• 情報技術の利用の増加:

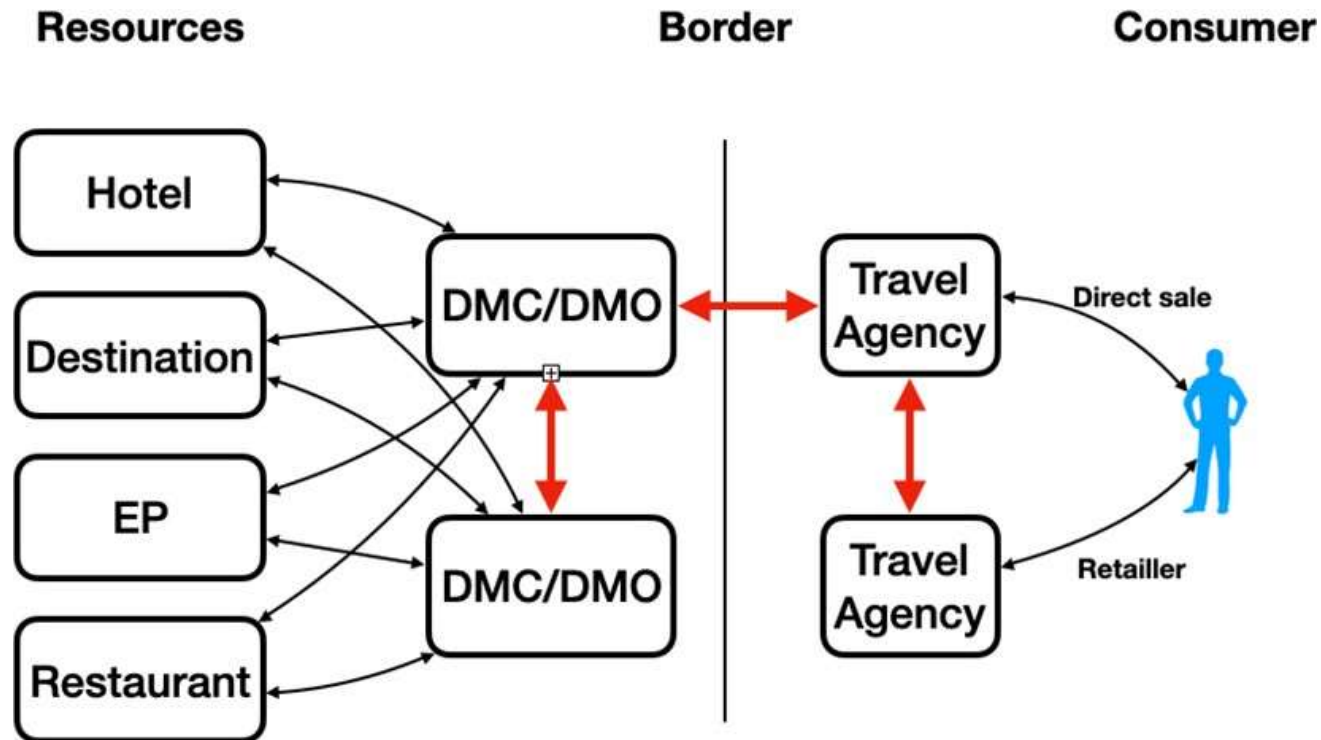
- **音声アシスタントとチャットボット:** 音声で起動するアシスタントとチャットボットはより洗練されており、旅行者が情報を入力したり予約したりする便利な方法を提供しています。ホテルの客室、空港、ウェブサイトなどで採用されています。
 - **持続可能な旅行技術:** 持続可能性は引き続き優先事項です。旅行会社は、旅行ルート最適化から環境に優しい宿泊施設のオプションの提供、責任ある観光の推進まで、テクノロジーを活用して環境への影響を削減しています。
 - **ロボット支援:** 空港、ホテル、観光名所での手荷物の取り扱い、清掃、顧客サービスなどの業務にロボットが使用されることが増えています。非接触サービスを提供し、効率を高めることができます。
- 旅行・観光業界、特に小規模宿泊施設、観光事業者、旅行代理店は、**体験プログラム技術仕様プロジェクト**から多大な恩恵を受けることができます。

• SLH および EPs 技術仕様プロジェクトの利点:



• 旅行会社とDMC & DMOパッケージツアープロジェクト :

• Components





旅行会社とDMC&DMOパッケージ ツアープロジェクト

戴 東華 / Siloah Travel 創設者

アンソニー・チェン / 商業開発研究所
CIDS 副所長

4 October 2023



旅行会社とDMC & DMOパッケージツアープロジェクト

プロジェクトの目的 (1/3)

- 「パッケージツアー」は、過去1世紀で最も人気のある旅行方法でした。
- インターネットが発明されて以来、数十万の旅行代理店、商品手配会社 (DMC)、観光協会等の観光地域づくり法人 (DMO) がこの業界で旅行者にサービスを提供しています。
- 業界では大手 OTA (オンライン旅行代理店) が目立っており、IATA 航空会社標準を使用していますが、OTA (オープントラベルアライアンス) ホテル予約標準、従来の旅行代理店や DMC/DMO は、このインターネット旅行のトレンドから取り残されています。
- 相互にデータを交換するための分野に関連した標準がありません。
- OTA時代ではFIT (Free Individual Traveler) で旅行する傾向にありますが、実際にはFITに適した条件は治安や交通の利便性、言語の壁などによって限定されており、最終的にはFITの旅行者の多くが大都市に滞在するという結果になりました。
- OTAは旅行者と旅行リソースの「マッチングプラットフォーム」にすぎません。
- 機会と要件は、旅行代理店が DMC と連携してサービスと知識の付加価値を提供して、より良い旅程を設計し、より幅広い目的地への旅行を提供できることです。



旅行会社とDMC & DMOパッケージツアープロジェクト

プロジェクトの目的 (2/3)

実際の旅行が行われる前に、旅行業界の商品は単なる「情報」であり、物理的な商品は存在せず、旅行代理店や DMC の多くは、現状オープンスタンダードが存在しない中小企業です。

- 現在、大手 OTA はすべて独自の API ルールを独自に作成しており、グローバルな API 標準が存在せず、すべての異なる API 標準を使用して OTA を相互に接続することは、すでに非常に大規模で高価な作業となっています。
- 認められたオープンスタンダードがないと、中小企業・中小零細企業の旅行会社は業界に貢献できなくなります。
- 小規模な旅行代理店がさまざまな API 標準でさまざまな OTA に接続するためのソフトウェアを開発することはほぼ不可能であり、UNECE-UN/CEFACT によって作成されたようなオープンな世界標準とこのプロジェクトの目的はこの課題を克服するでしょう。
- 中小企業の旅行代理店が直面している課題は、世界的な商品の取引において中小企業が直面している課題と同じです。



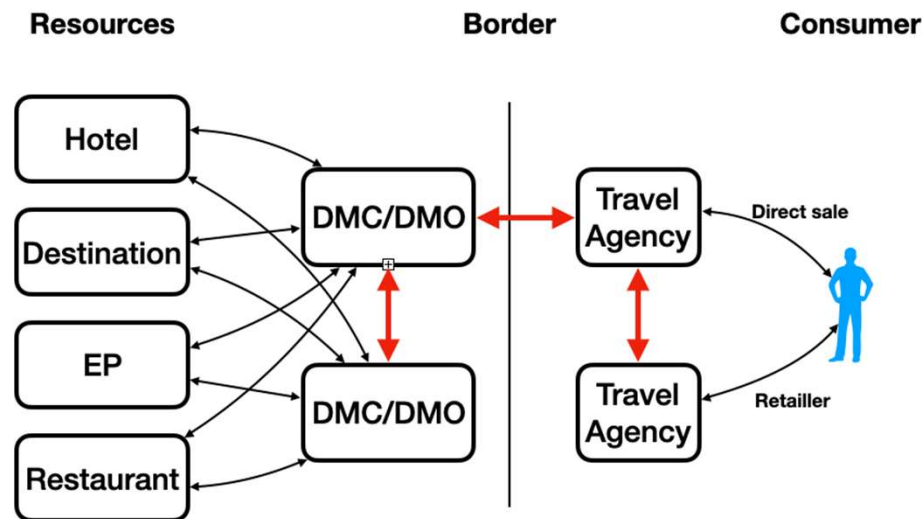
旅行会社とDMC & DMOパッケージツアープロジェクト

プロジェクトの目的 (3/3)

- UNECE-UN/CEFACT の使命は、大企業の特注プラットフォームと中小企業の業界関与との間のギャップを埋める標準を作成することです。
- このプロジェクトの目的は、旅行会社（従来の旅行会社と OTAを含む）間、旅行会社と DMC の間、および DMC と DMC の間で「旅程」、「見積」、「パッケージツアー」、「旅行者」、および「レビュー」データを交換するための API 標準セットを設計することです。

プロジェクト範囲 (1/2)

- このプロジェクトにより、旅行会社（ほとんどが中小企業）と商品手配会社（DMC）および観光協会等の観光地域づくり法人（DMO）の間でツアーパッケージデータを交換するために使用されている現在の電子メールとスプレッドシートを、調和されたデータとコメントに置き換えることができます。
- （下図の赤い矢印を参照）。これにより、追加のセマンティックデータ定義がCCLに提供され、RDMは標準化されたAPIを作成する機能を確立します。





プロジェクト範囲 (2/2)

- このプロジェクトは、旅行会社、商品手配会社 (DMC)、および観光協会等の観光地域づくり法人 (DMO) API の定義と参照データ モデル (RDM) を作成することです。これは認証システムを提供するものではありませんが、認証またはラベル付けシステムを構築するための要素を提供します。
- このプロジェクトは、旅行会社、商品手配会社 (DMC)、観光協会等の観光地域づくり法人 (DMO) を簡素化し、促進するために、将来の勧告の構成要素も政府に提供します。
- このプロジェクトは、持続可能な観光商品の一部である持続可能な観光のためのビジネス基準の技術的応用に関するホワイト・ペーパーで UN/CEFACT によって作成された作業を考慮します。
- アイテム:
 1. 旅程、2. 見積、3. ツアー、4. 旅行者、5. レビュー
- フェーズ:
 1. デザイン、2. マーケティング、3. 予約、4. 旅行、5. 旅行後



旅行会社のデータ交換

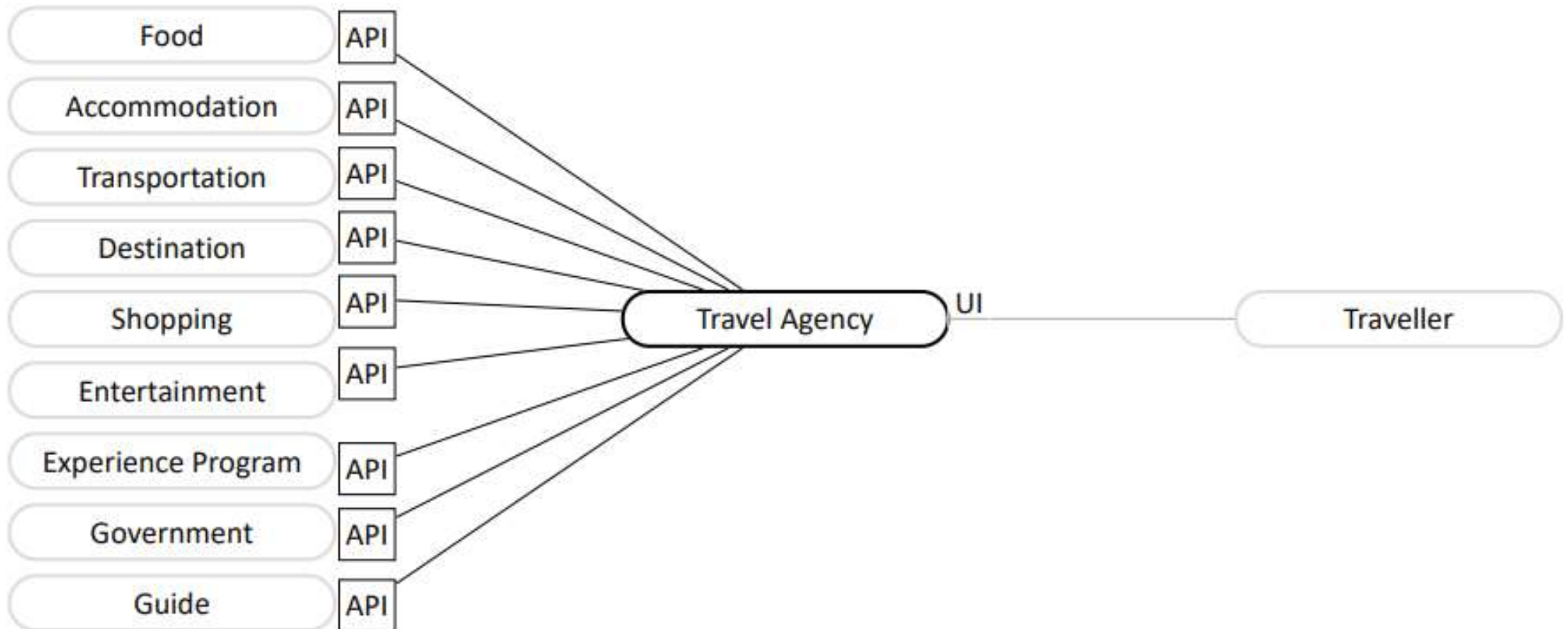
1. 旅行業界の全体像
2. 既存の API 標準
3. パッケージツアー 対 FIT
4. API を使用しないパッケージ ツアーの仕組み
- 5 移動フェーズとデータ交換
6. 旅行業界のオープンデータ
7. Travel API の課題



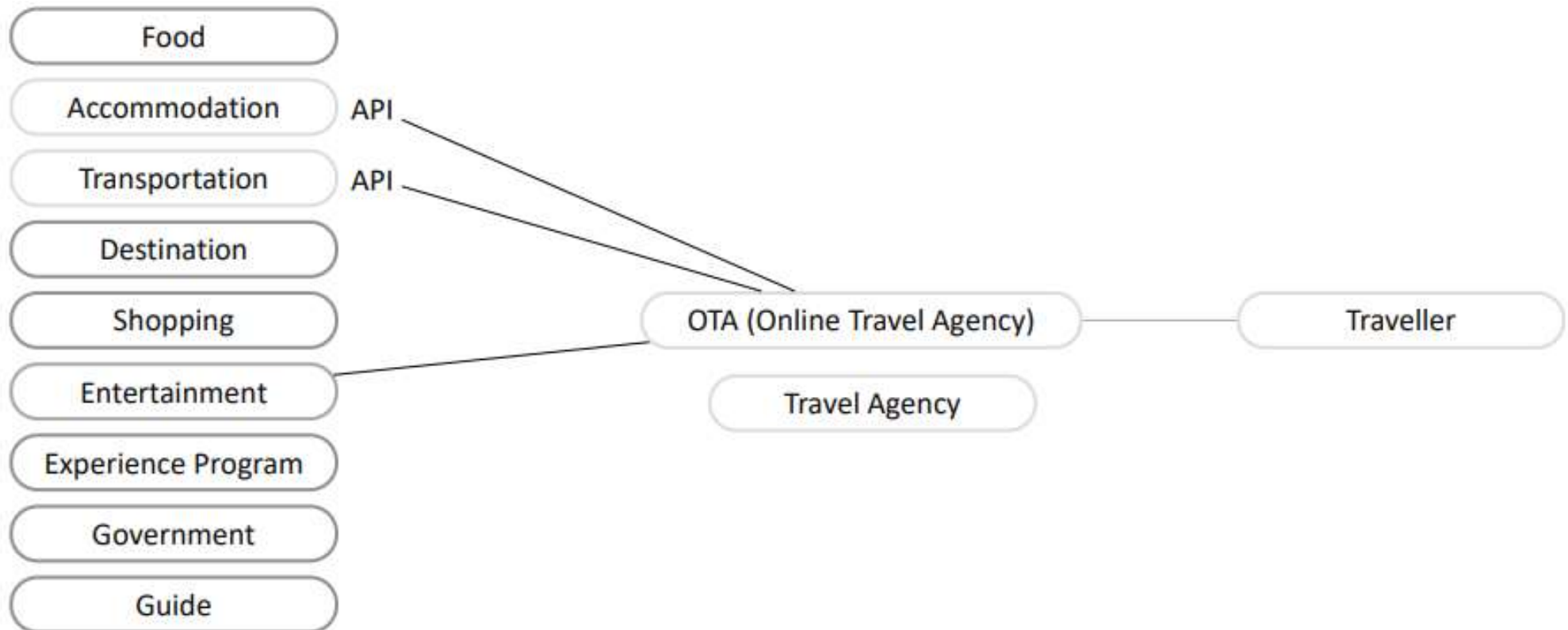
旅行業界

		既存の API 標準
食事	レストラン	
宿泊施設	民宿、民宿、簡易宿泊所	オープントラベルアライアンス (XML)、SLH
交通機関	航空会社、電車、クルーズ	IATA による NDC (XML)
観光地	博物館、国立公園	
買い物	土産店	
エンターテインメント	劇場、オペラ、テーマパーク	
旅行会社	旅行会社、DMC、DMO、ガイド	
地方自治体	観光局	
体験プログラム	文化体験、アクティビティ、遠足	EPsプロジェクト
旅行者		

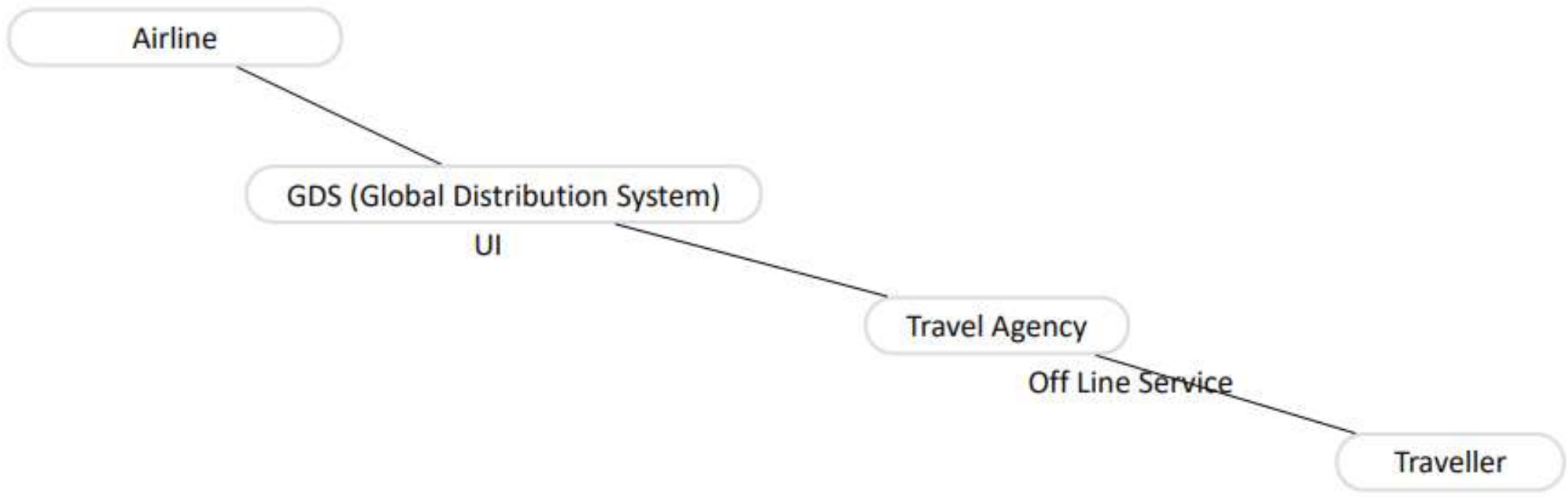
将来の目標



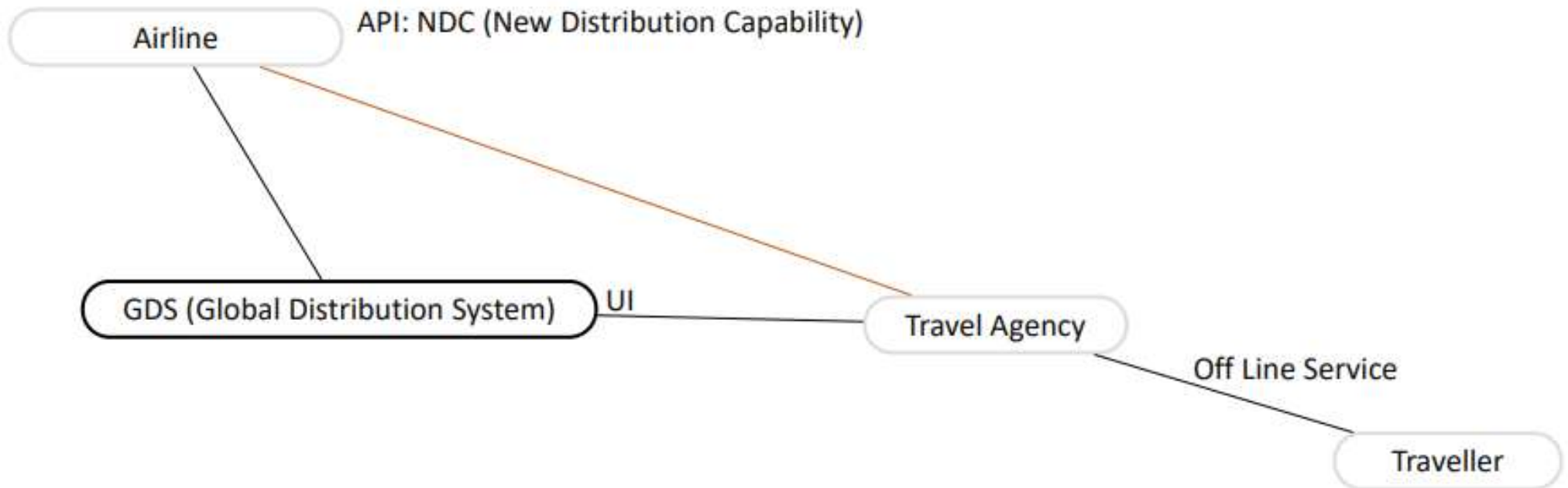
FIT (自由な個人旅行者; Free Independent Traveler)



航空業界（以前）



航空業界（目標）

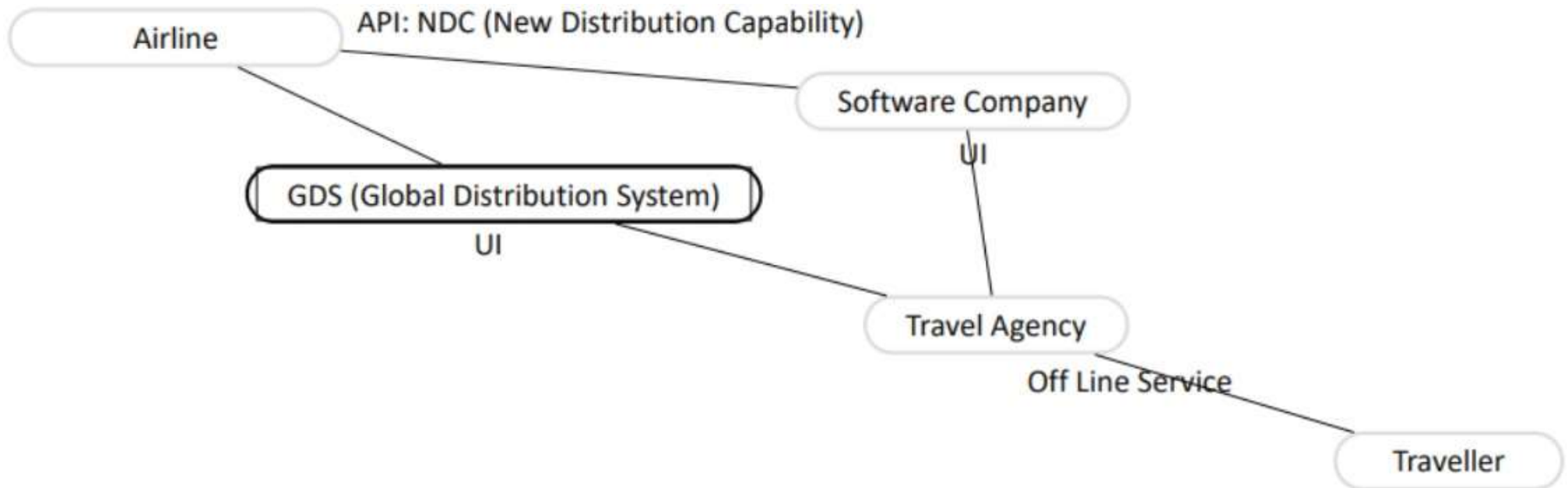


課題:

従来の旅行会社にはAPI接続機能がない

旅行会社は「乗り継ぎ便」を計算するために「各航空会社」に乗り継ぐ必要があります。

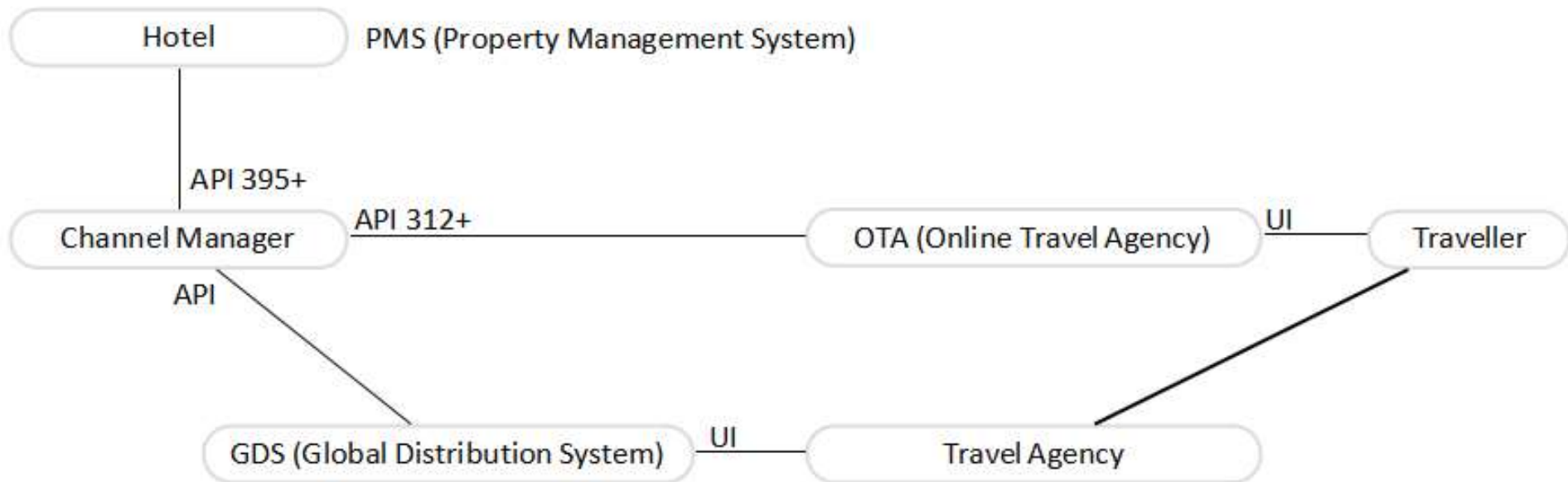
航空業界（今後）



課題:

旅行会社はクラウドソフトウェア会社を通じて API を接続します
GDSがソフトウェア会社を合併します

宿泊API (Accommodation API)



チャンネルマネージャーの機能: 在庫状況データ、ダイナミックプライシング インターネットは
 中間業者を削減することを目的としていたが、最終的には巨大な中間業者を生み出すことになる



Packing Tour 対 FIT

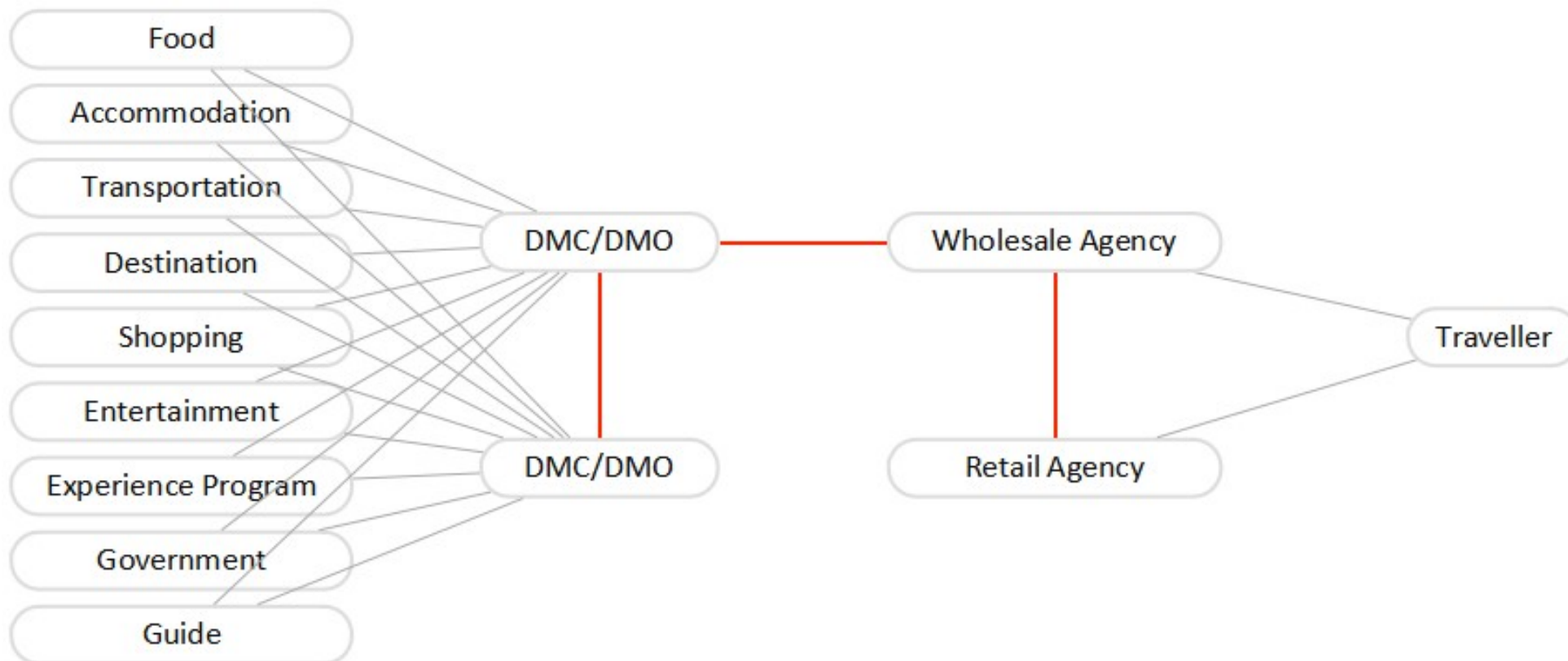
FITの制限

1. 安全性
2. 便利な交通機関
3. 言葉の壁

事実：

1. FITは限られた国、特に大都市に集中している
2. 地方は旅行だけでは活性化できない

パッケージツアー-APIの範囲



DMC (目的地管理会社)

DMO (デスティネーションマネジメント組織)



パッケージツアー

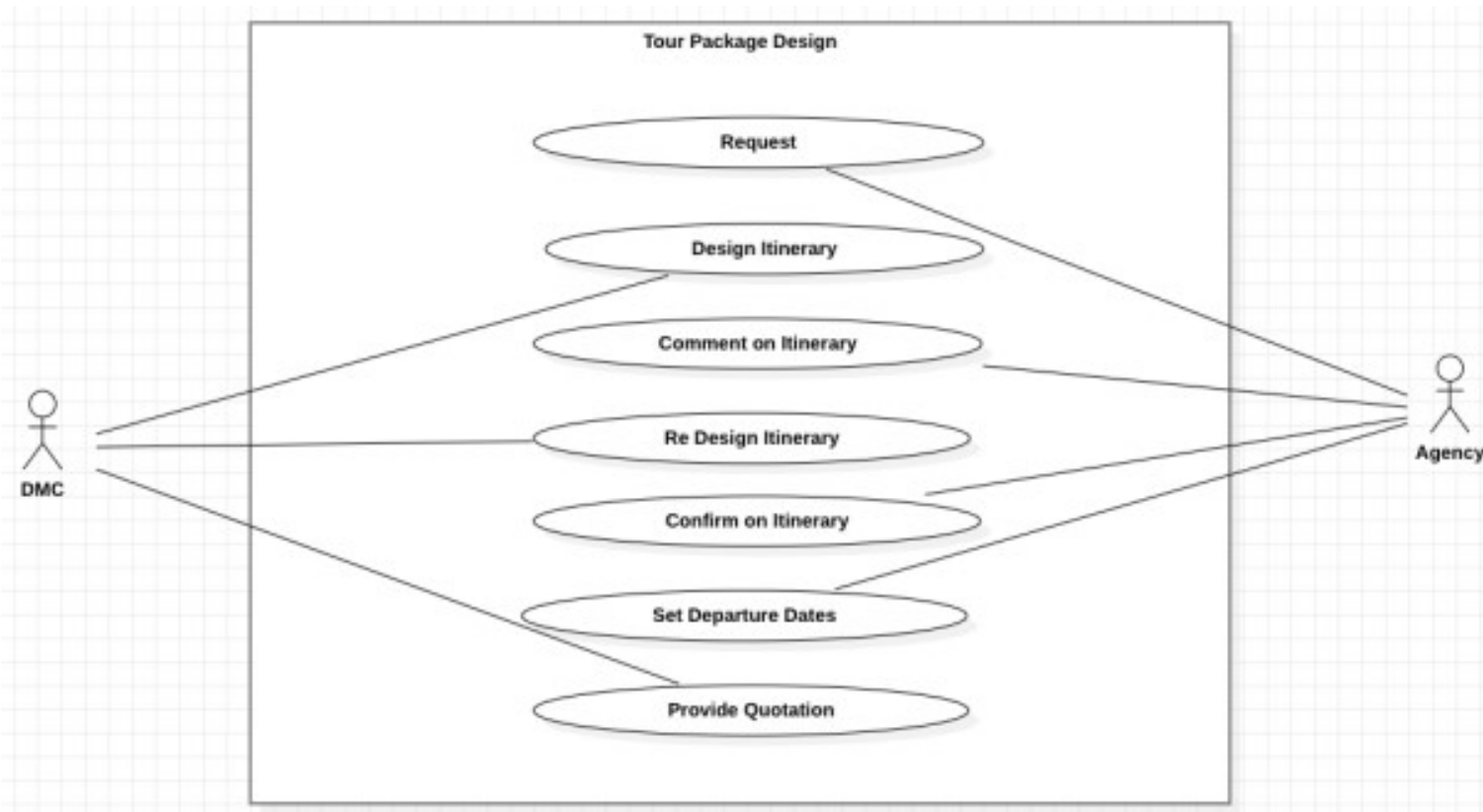
設計段階

マーケティング段階

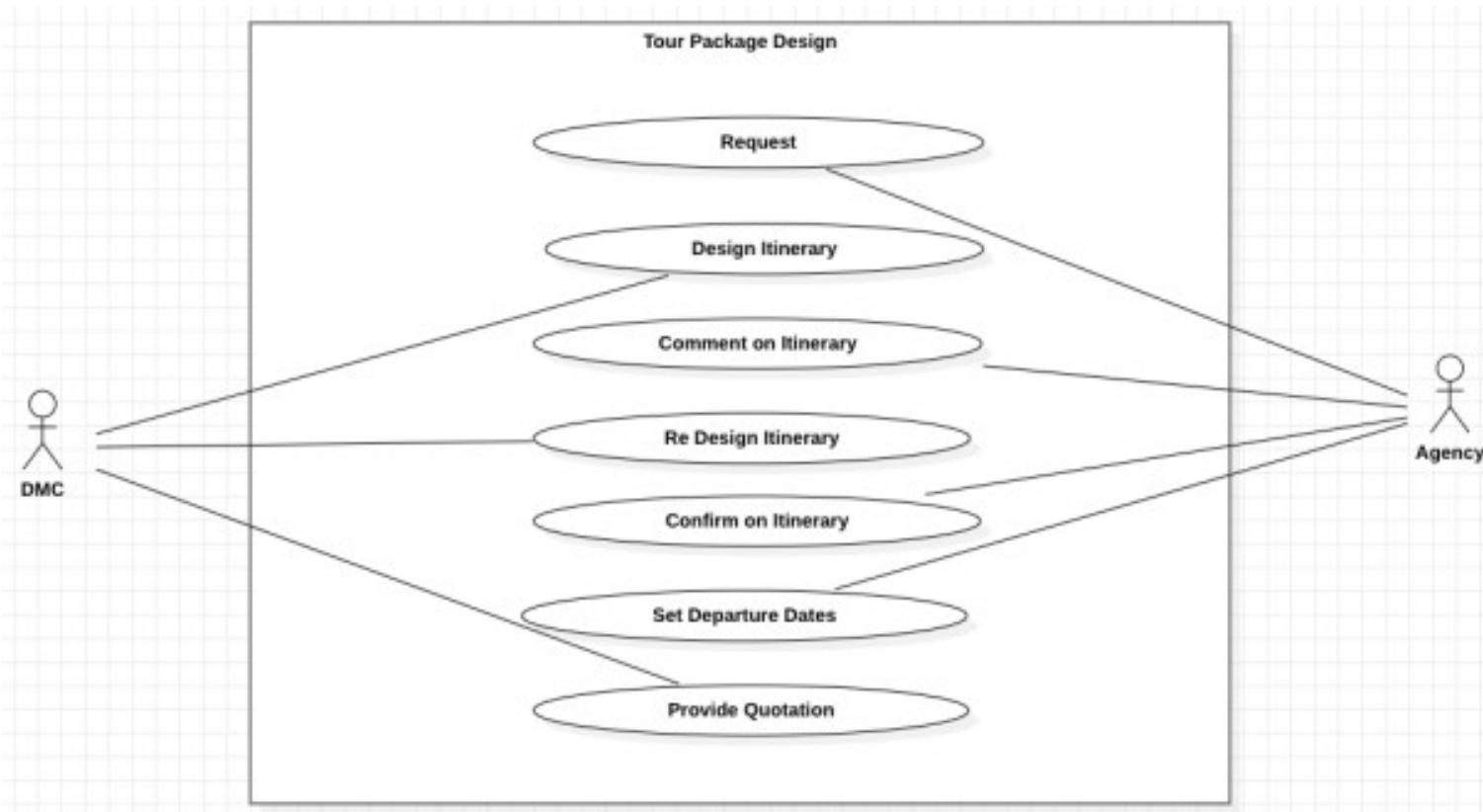
出発前段階 (Pre-Departure Phase)

旅行後段階

パッケージツアー - 設計段階

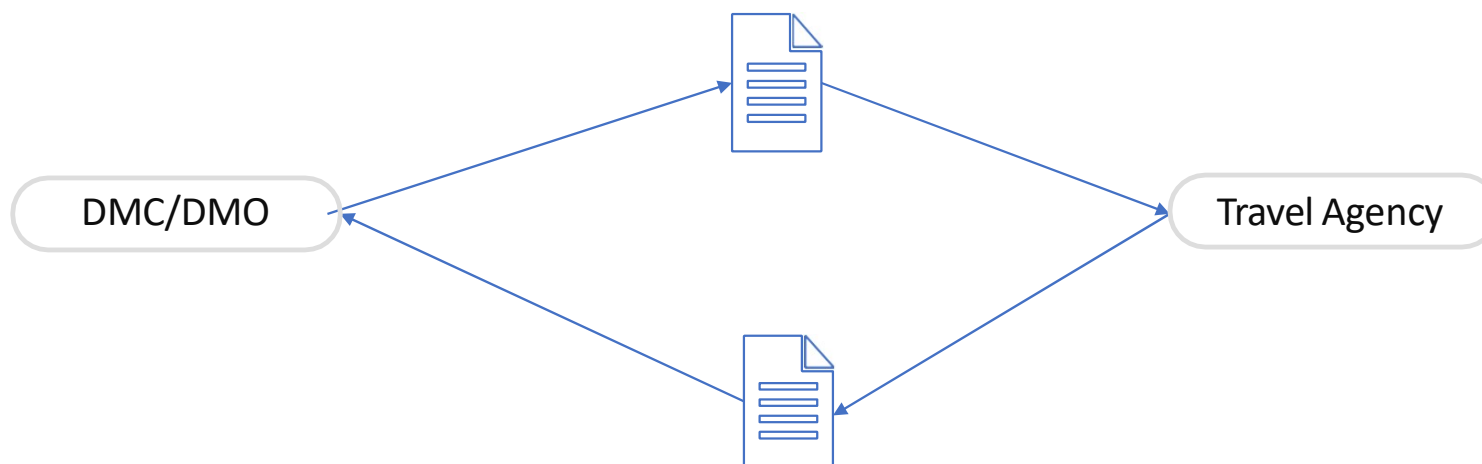


パッケージツアー - 設計段階

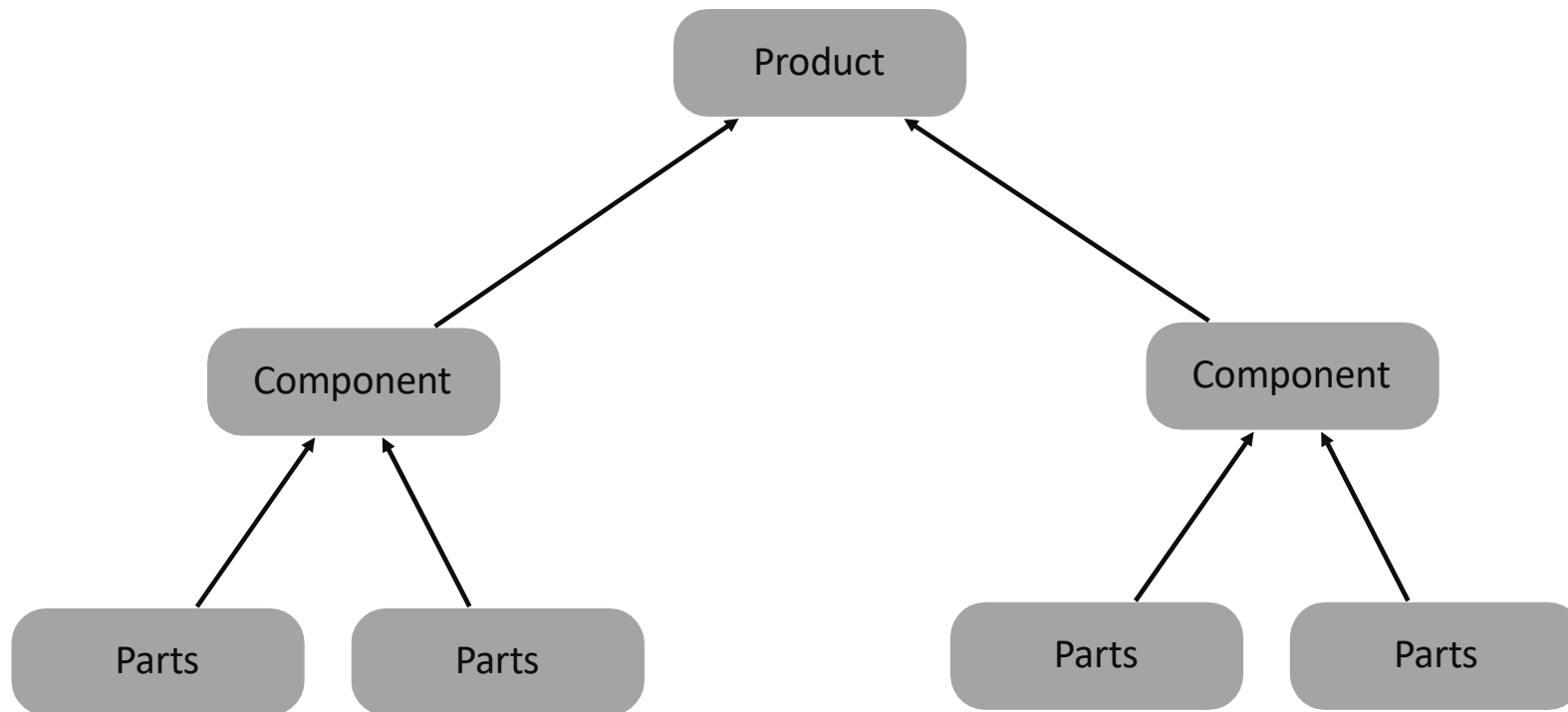


パッケージツアー - 設計段階

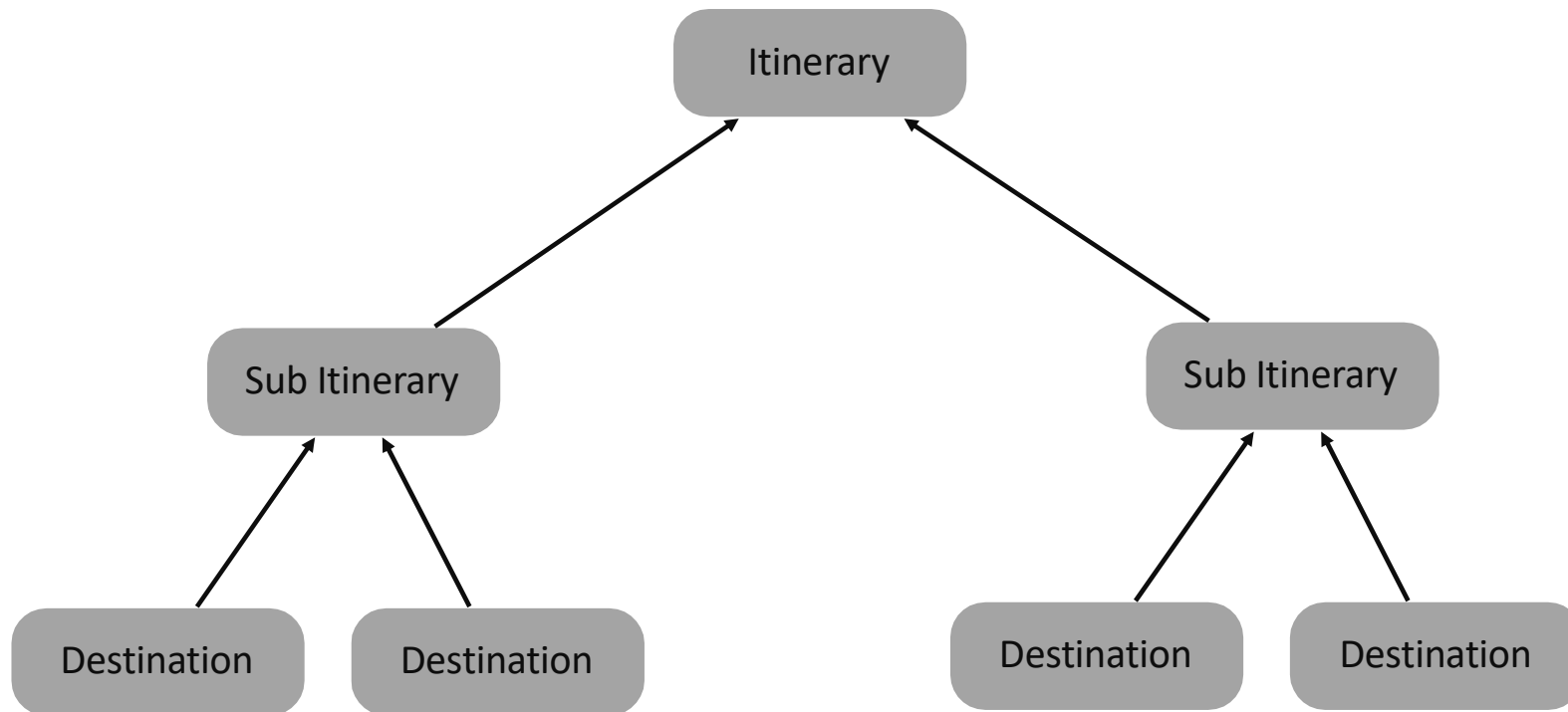
- 旅程は多層的である必要がある
- 旅程はさまざまな仲介業者によって複数回パッケージ化されています
- JSON は多層データに最適な形式です
- 「引用」ドキュメントは CCL の要素を再利用します
- 旅程表と見積書、2つの書類がセットである必要があります



旅程とBOM



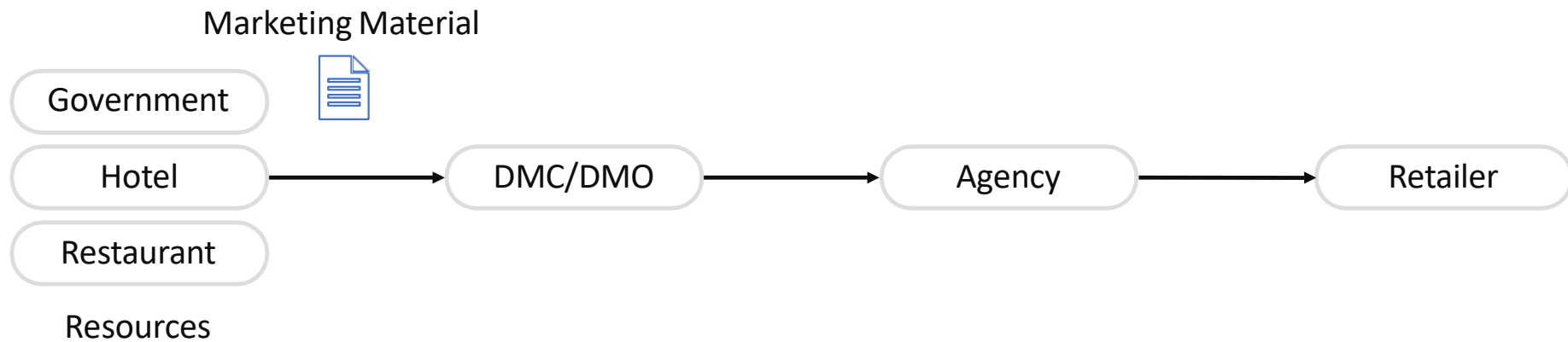
旅程とBOM





パッケージツアー - マーケティング段階

- 「供給源」からのマーケティング資料
- 「政府」からのマーケティング資料
- 「旅行者」からのマーケティング資料
- 目的地ごとの基本情報、多言語対応





パッケージツアー - 出発前段階

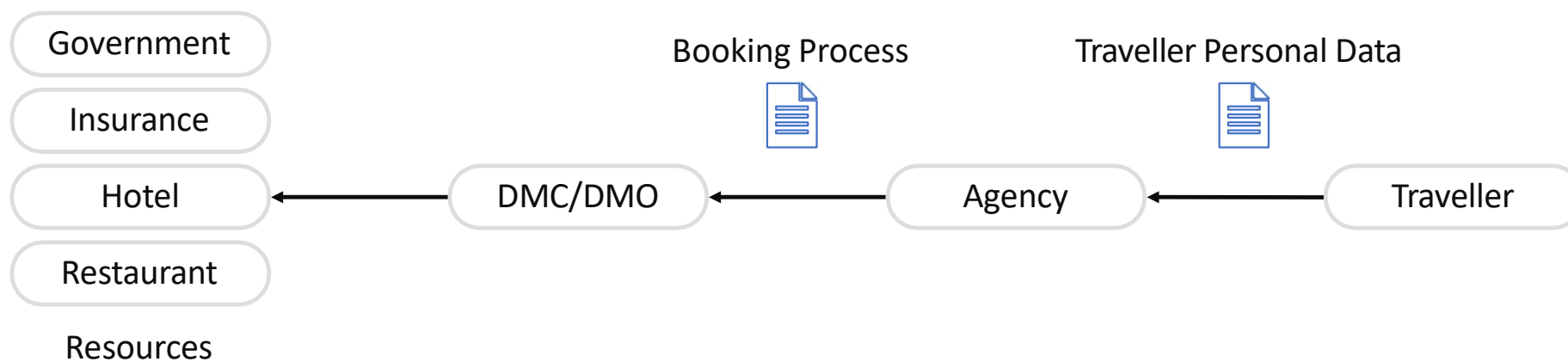
予約プロセス、部屋の予約(block rooms)

キャンセルポリシー、違約金(penalty)

保険

渡航書類: パスポート、ビザ...

各パスポート所有者のビザ条件





パッケージツアー - 旅行段階

- 旅行者の基本情報を供給基(resource)に渡す必要があります
- 荷物追跡
- 特別なリクエスト、アレルギー、車椅子…
- 食事を事前注文すると、レストランの食材(ingredient)の在庫レベルが下がる可能性があります
- リアルタイムのフィードバック



パッケージツアー - 旅行段階後

旅行者からのフィードバック

複数の仲介者を通じてフィードバック データを交換する

レビューデータ:

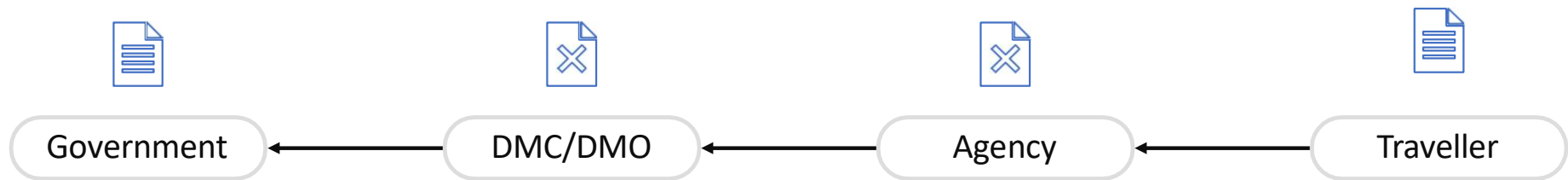
現在、レビューデータは大手企業によって管理されている

レビュー担当者は実際の顧客である必要がある

ブロックチェーンはレビューデータを保存するのに最適な場所である

課題

データ保護



ビザに必要なデータ構造:

- 名前
- 電話の誕生日
- パスポート番号

アプリ(APP)



Private Key



Public Key



Public Key

第41回 UN/CEFACT
バンコク・フォーラム

持続可能性を主張する EPs 技術仕様の API 変換

JTREC
板垣 和芳





1.プロジェクトのリーダーシップ

持続可能性を主張する EPs技術仕様の API 変換プロジェクト

リード: サチン メータ

サブリード: ダニエル ツミエット

エディタ: 田中 幹夫



2.新規EPsプロジェクトの目的

- 体験プログラム技術仕様プロジェクト（EPsプロジェクト）は2022年10月に完了しましたが、これに続く新たなEPsプロジェクトの提案が今年5月に事務局によって承認されました。
- 新規EPsプロジェクトには2つの目的があります。
- 1つは、UNCEFACTの新たに構築された技術仕様に基づいてアーティファクトをAPI形式に変換し、スマートフォンでより軽量かつ簡単にエクスペリエンスプログラム（EP）を取引できるようにすることです。中小企業は、自社のビジネスに適用する基準を設ける必要があります。これにより、多くの中小企業はEPの取引が容易になることを期待するかもしれません。
- もう1つは、EPを取引するタイミングと同時に、SDGsに基づいて関連サプライヤーが自己評価した持続可能性情報を顧客に転送して、購入しようとしているEPの持続可能性目標のレベルを理解できるようにすることです。この情報は顧客によって確認され、体験後にコメントされる可能性があります。こうした顧客のフィードバック情報は、業界の持続可能性の向上に貢献する可能性があります。
- 今回は後者について説明したいと思います。



3.プロジェクト範囲

- 体験プログラム技術仕様プロジェクトで開発された EPs Technical Artefacts に基づく API 形式は、UN/CEFACT API 関連仕様に基づいて開発されます。
- 持続可能性の主張クラスの BIE とそれに関連する BIE は、持続可能性関連の情報と EPs の顧客のコメントを伝えるために開発されます。
- EPs取引をさらに促進するために、上記の項目に関連する他の BIE およびコードが開発される予定です。

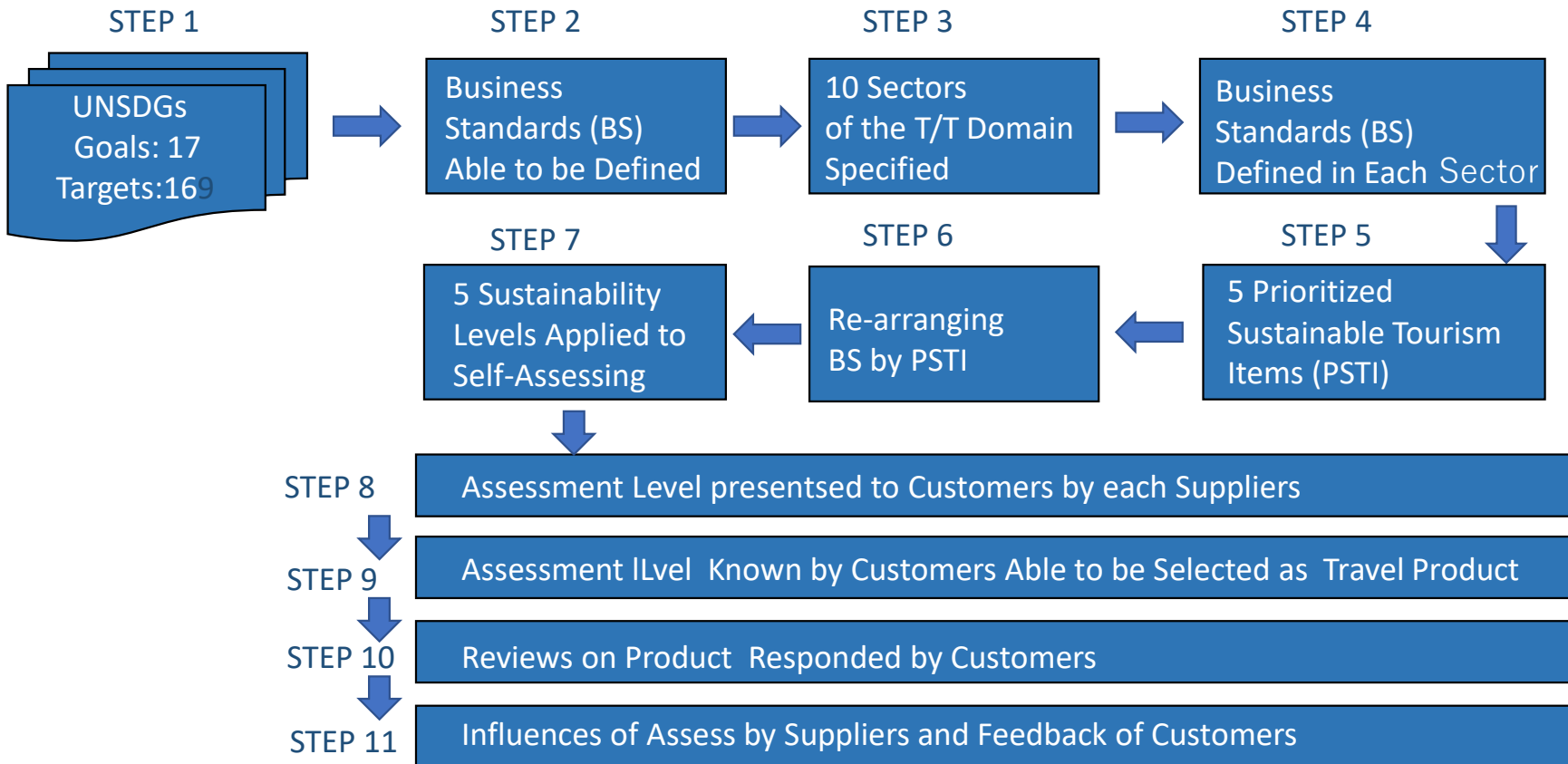


4. サプライヤーによる評価手順と顧客のフィードバック

- **ステップ1** UNSDGs の目標とターゲットが準備できました。
- **ステップ2** UNSDGs の目標とターゲットを取り出した T/T ドメインに適用されるビジネス基準を定義できます。
- **ステップ3** T/T ドメインの 10 セクタを指定します。
- **ステップ4** 各セクターはステップ2 から独自のビジネス標準を定義しました。
- **ステップ5** これらのビジネス基準は、5つのPSTI（持続可能な観光の優先項目）に基づいて再整理されます。
- **ステップ6** ステップ5 のビジネス基準の充足状況を自己評価するために、5段階の評価レベルが開発されました。
- **ステップ7** 各サプライヤーは、PSTI によって再整理されたビジネス基準に基づいて EP を評価します。
- **ステップ8** 各サプライヤーは、EP の販売画面に表示することで顧客に評価レベルを提示します。
- **ステップ9** 顧客は旅行会社の評価レベルを知り、満足すれば旅行商品を選択することができます。
- **ステップ10** 顧客は、製品を体験したときに、製品に関するレビューに返信できます。
- **ステップ11** 顧客のレビューを取得することで、サプライヤーは評価のレベルを変更したり、他の新規顧客がそれに応じて行動したりする可能性があります。

5. サプライヤーによる評価手順の概要と顧客のフィードバック

- サプライヤーによる評価手順の概要と顧客のフィードバック



6.指定された T/T 部門の分野

- 持続可能な観光に関連する基準が検討され、観光分野が提供するサービス内容や商品に応じて10のカテゴリに提案が分類されます。
- ST のビジネス標準に関するさらなる議論が、観光産業の持続可能な発展に役立つ将来の電子交換システム データベースの構築の実現可能性を促進する参考として役立つことが期待されます。



7.分野ごとに定められたビジネス基準(BS)

4. 食品・レストラン

- 食べ物は、特定の目的地を訪れる個人の動機を決定する上で重要な役割を果たす可能性があります。地元の食べ物を味わうことは、エキサイティングな方法でエンターテインメントと文化的背景を提供するため、没入型の伝統的な旅行体験プログラムへの出発点となりえます。
- レストラン部門における持続可能性計画では、地元の生産者と観光客の間の仲介者としてのつながりに焦点を当て、持続可能性を満たすために地元の食品消費に焦点を当てるよう意識しながら、それぞれの生産者とコミュニケーションをとることができます。

	<p>3.9 Providing or encourage the source of organic food ingredients to avoid illnesses caused by chemical contamination.</p> <p>3.5 Signs or guideline posted on menu for harmful use of alcohol.</p> <p>3.a Strictly reinforce the non-smoking environment inner space and surrounding area.</p>
	<p>6.3 Collect rainwater or recycled used water in activities where the use of drinking water is not required (e.g. flushing, washing).</p> <p>6.3 Take action to build the wastewater system to reduce sewer water pollution and avoiding wastewater dumping.</p> <p>6.4 Initiated water saving plan such as lower pressure of kitchen faucets, washbasins, and the restrooms, and automatic activation of kitchen sinks or tap water.</p>
	<p>7.2 Percentage of use renewable energy (wind, solar or photovoltaic).</p> <p>7.3 Adopt efficiency energy management, has smart energy meters and documentation for the assessment for energy conservation.</p>
	<p>8.5 Handicapped people are hired without any discrimination at Cashier Area or for any other suitable jobs. (people with disabilities, jobless....etc.) .</p> <p>8.6 Create Job opportunities in the restaurant to youth and aged people for equal pay for work of equal value.</p> <p>8.8 Take actions to protect labor rights and promote a safe and secure working environment (safety and labor right check regularly).</p>
	<p>12.3 Assess the food waste during food preparation and distribution.</p> <p>12.3 Train employees to avoid food waste during all stages of meal production, from the receipt of food to distribution.</p> <p>12.5 Adopt strategies to minimize the use of disposables materials as much as possible, and documented in the records.</p> <p>12.5 Adopt strategies to reduce the use of plastic in the distribution of meals.</p>
	<p>14.4 Stop providing meals made from endangered marine animals and plants.</p> <p>14.b Purchase seafood ingredients from sustainable supply chain or local fish farms.</p>
	<p>15.7 Stop providing meals made from endangered animals and plants on land.</p> <p>15.7 Purchase meat ingredients from sustainable supply chain or local farms.</p>



8.持続可能な観光の優先項目（PSTI）

持続可能な観光の優先項目（PSTI）

SDGsでは観光目標を直接的に示し、持続可能な観光の重点5項目を抽出しました。

- ターゲット8.9：「雇用の創出と製品のプロモーション」
- ターゲット 11.4、 14.7:「文化遺産および自然遺産の保護と自然環境の保全」
- ターゲット 12.b:「持続可能な観光に対する持続可能な開発への影響を監視する」 = 「目的地管理」
- その他の観光関連対象：「その他の持続可能な観光の重点項目」

抽出した持続可能な観光の重点5項目は以下の通り。

- A. 「雇用の創出と商品のプロモーション」
- B. 「自然環境の保全」
- C. 「文化財の保存」
- D. 「目的地管理」
- E. 「その他の持続可能な観光の重点項目」

9.PSTIによるビジネス基準の再整理

4. 食品・レストラン

ビジネス基準は、持続可能性レベルを自己評価するために、PSTIによってカテゴリーごとに再整理されます。

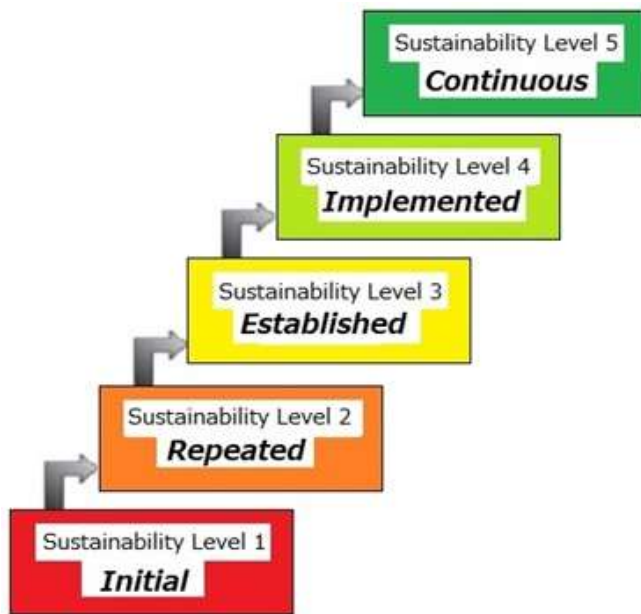
例えば、カテゴリー 4.1 のレストランでは、業務基準が再整理されています。

右表に示すように、持続可能な観光の重点項目Aには、8.5、8.6、8.8の3つの事業基準が含まれています。

A	8.5	Handicapped people are hired without any discrimination at Cashier Area or for any other suitable jobs. (people with disabilities, jobless. etc.)
A	8.6	Create Job opportunities in the restaurant to youth and aged people for equal pay for work of equal value.
A	8.8	Actions of protect labor rights and promote a safe and secure working environment (safety and labor right check regularly)
B	3.a	Strictly reinforce the non-smoking environment inner space and surrounding area
B	6.3	Collected rainwater or recycled used water in activities where the use of drinking water is not required (e.g. flushing, washing)
B	6.3	Action to build the wastewater system to reduce sewer water pollution and avoiding wastewater dumping
E	3.5	Signs or guideline posted on menu for harmful use of alcohol
E	3.9	Providing/ using/ encourage the source of organic food ingredients to avoid illnesses caused by chemical contamination

10.自己評価に適用される持続可能性レベル

持続可能性レベルの改善の道筋は、次のように段階的に表現されます。



サステナビリティレベル 1 初期	SDGs の意識がない。持続可能な観光の優先項目に対する認識が不足しています。
サステナビリティレベル 2 繰り返し	SDGs はある程度認知されている。ただし、限られた項目のみが取り上げられ、限定的に実施されます。
サステナビリティレベル 3 確立	標準的なパフォーマンスプロセスが組織内で承認されている。SDGs に対する十分な認識が認められる。
サステナビリティレベル 4 実施	SDGs がよく理解されている。持続可能な観光の優先事項の多くは実施されています。
サステナビリティレベル 5 継続的	SDGs の十分な認識の下、持続可能な観光の優先項目が十分に理解され、実施されています。



11. 自己評価結果の表示例

自己評価結果の表示例を下表に示します。

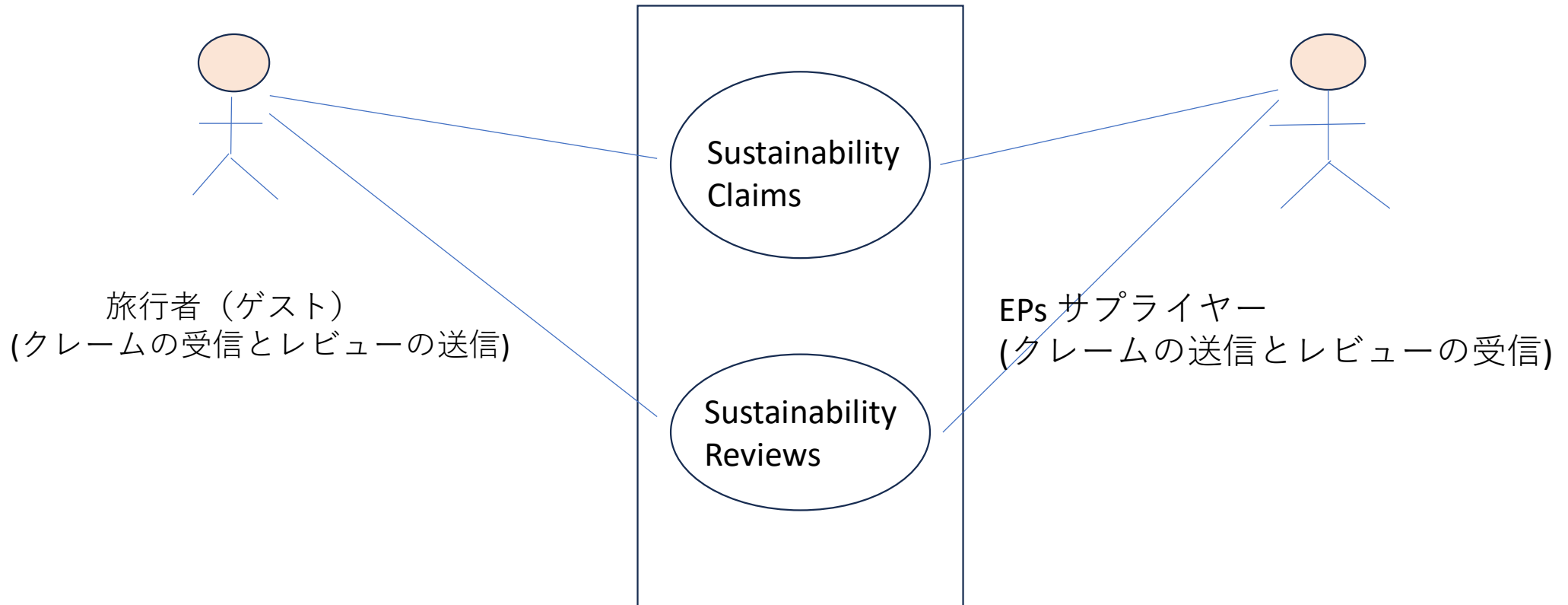
この表の数字は、持続可能な観光の優先項目ごとの持続可能性レベルを示しています。

評価 0 は、講じるべきビジネス基準はあるものの、レストラン ABC がまだ行動を起こしていないことを示します。

(-) 欄は、持続可能な観光の優先項目に対応する業務基準がないことを示します。

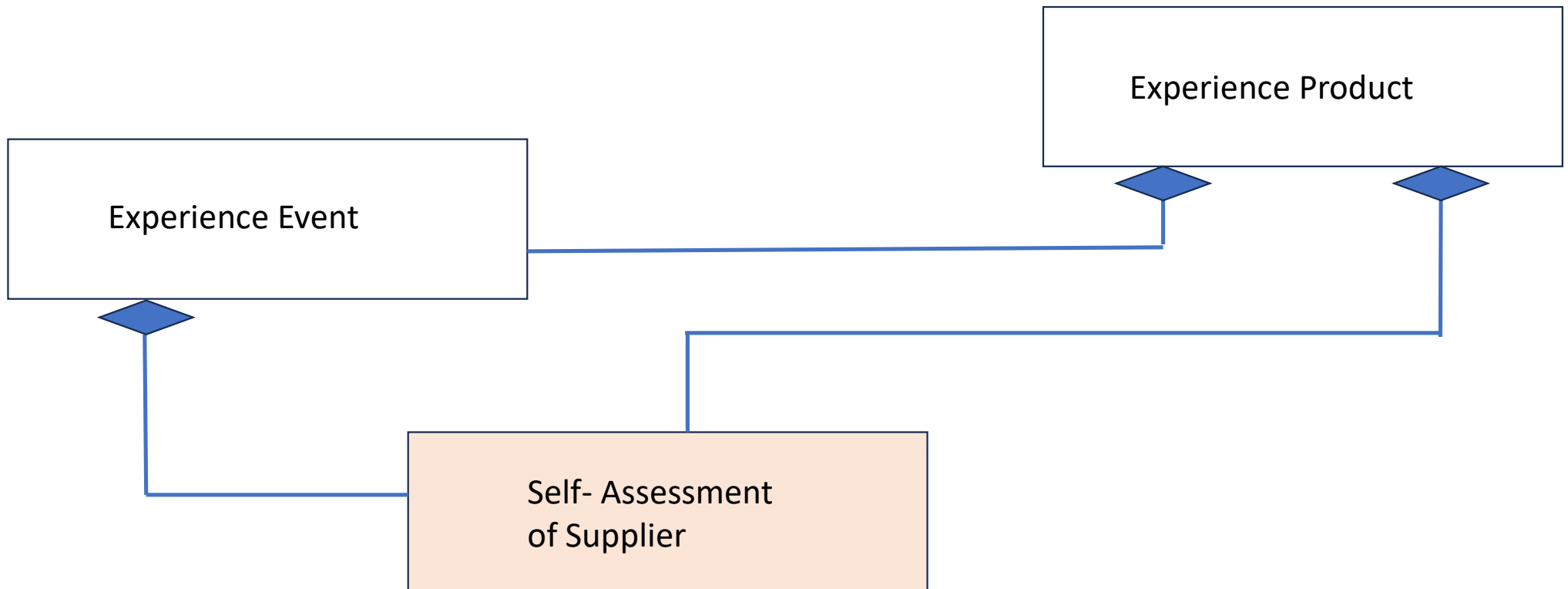
Prioritized sustainable tourism item	A. Job creation and products promotion	B. Natural environment conservation	C. Cultural heritage conservation	D. Destination management	E. Other prioritized sustainable tourism item
Category num. Practitioner					
4.1 Restaurant ABC	1	2	-	-	0

12. サプライヤーの自己評価による持続可能性主張と旅行者のレビューの使用例





13.関連する自己評価クラス関連



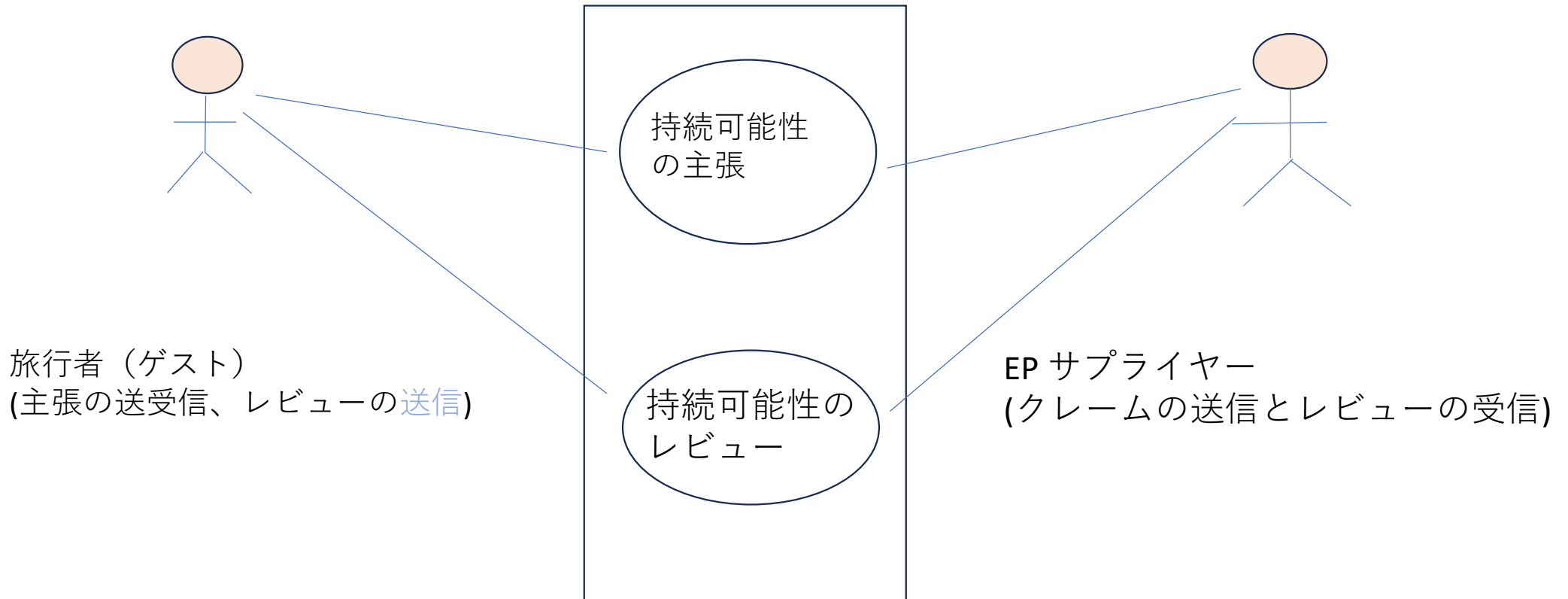


14. 自己評価のビジネス情報エンティティ

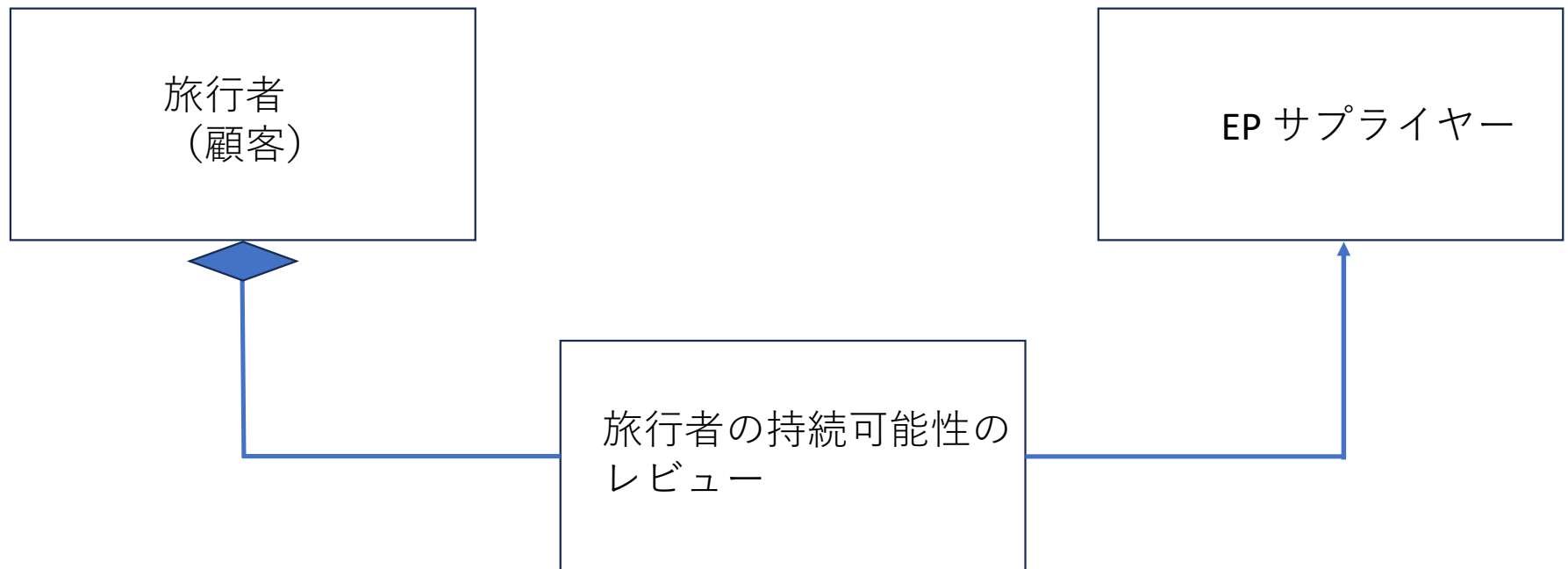
Entity	Short Name	Definition	Min Occur.	Max Occur.	Data Type
ABIE	Self-Assessment				
BBIE	Sustainability Level		0	1	Numeric
BBIE	Reason Text		0	*	Text
BBIE	Responsible Person		0	1	Code
BBIE	Assessed Date		0	1	Date Time
BBIE	Description		0	n	Text
BBIE	Assessment Criteria		0	n	Text *

* In Assessment Criteria, suppliers describe the criteria to be understood by travellers

15.自己評価による持続可能性主張と旅行者のレビューの使用例



16.顧客レビュー関連クラスへの関連



17.顧客のレビューのビジネス情報エンティティ

Entity	Short Name	Definition	Min Occur.	Max Occur.	Data Type
ABIE	Customers Review				
BBIE	Sustainability Review		0	1	Code (1:Agree, 2:Not Agree, 3:Negative,...)
BBIE	Review Comment		0	n	Text (Comment on the supplier's assessment)
BBIE	Comment Date		0	1	Date Time
BBIE	Commented Person Name		0	1	Text



18.これからの作業

(1) サプライヤーの持続可能性に関する主張と消費者のレビューまたはコメント

以上に述べたように、自己評価授業と評価検討授業のユースケース図、クラス図、BIEのプロトタイプを作成しました。

上記に基づいて、EPs をさらに容易にするために、関連するクラス図と BIE を開発します。

(2) EPs 技術仕様に基づく API フォーマットの開発

私たちはこの課題を引き続き検討し、指定された期限までに成果物を完成させるつもりです。



19.補足 最近の考察から(1)

今回提示されたテーマについて部内で検討会を開催し議論しました。ここではその内容をレポートしたいと思います。

1) 5段階評価の基準について

- 自己評価では、評価者によって評価が異なる恐れがあります。また、この評価方法では、サプライヤーのさまざまな取り組みを網羅していない。
- 回答: この評価方法は成熟度レベルに基づいており、レベル3が標準となっており、それ未満のレベルは不十分、それ以上のレベルが望ましいとみなされます。この方法では実態を十分に反映できていないかもしれませんが、さまざまな意見を取り入れて改善していきたいと考えています。

2) お取引先様とお客様の運用スキームについて

- 企業は財務諸表に加えてESGパフォーマンスを株主に提示し、株主からの批判を通じて事業の浄化を図ります。
- 同様に、サプライヤーがSDGsへの取り組みを顧客に提示し、顧客からの批判を受け入れる仕組みを確立する必要があります。

3) SDGsの取り組みに関するガイドラインについて

- SDGsの取り組みでは、一方が良い成果を上げて、もう一方が不利益を被ることもあります。このことを踏まえ、SDGsの取り組みに関するガイドラインを示すべきです。



19.補足 最近の考察から(2)

4) SDGsとは何か、その取り組み方について

- SDGsには目標という言葉が使われていますが、基本的に目標はありません。この制度は、何をするかを決めるのではなく、顧客がサプライヤーのやったことをプラスまたはマイナスで評価する、いわゆるアウトカム評価があればよりうまく機能すると思います。
- ビジネス標準で使われる「標準」という言葉には、何かを強制するという意味あいがあります。SDGsは強制的な目標ではなく、みんなで目指すべき目標なので、「標準」というのは不適切な気がします。
- 情報開示にはさまざまな形態が考えられますが、情報技術はそれらすべてを可能にすると思われます。むしろ、顧客の貢献意欲を高めることが必要です。
- 顧客がサプライヤーにSDGsに基づいた希望する旅行を提案し、サプライヤーが旅行の実現可能性を回答するというやりとりも一つの方法かもしれません。そうすることもSDGsにも貢献します。



閉会セッション

国連/CEFACT事務局

2023年10月5日

Speakers



Ms. Sue Probert
Chair
UN/CEFACT



Mr. Ian Watt
Vice Chair
UN/CEFACT



Ms. Liliana Fratini Passi
Vice Chair
UN/CEFACT



Mr. Aleksei Bondarenko
Vice Chair
UN/CEFACT



Ms. Hanane Becha
Vice Chair
UN/CEFACT



Mr. Marek Laskowski
Vice Chair
UN/CEFACT



Mr. Tahseen Khan
Vice Chair
UN/CEFACT

Highlights of the forum

304
in-person
participants

60+
Countries

204
online
participants

23
Sessions

19
UN/CEFACT
projects
discussed

8
new
projects
proposals

旅行・観光部門

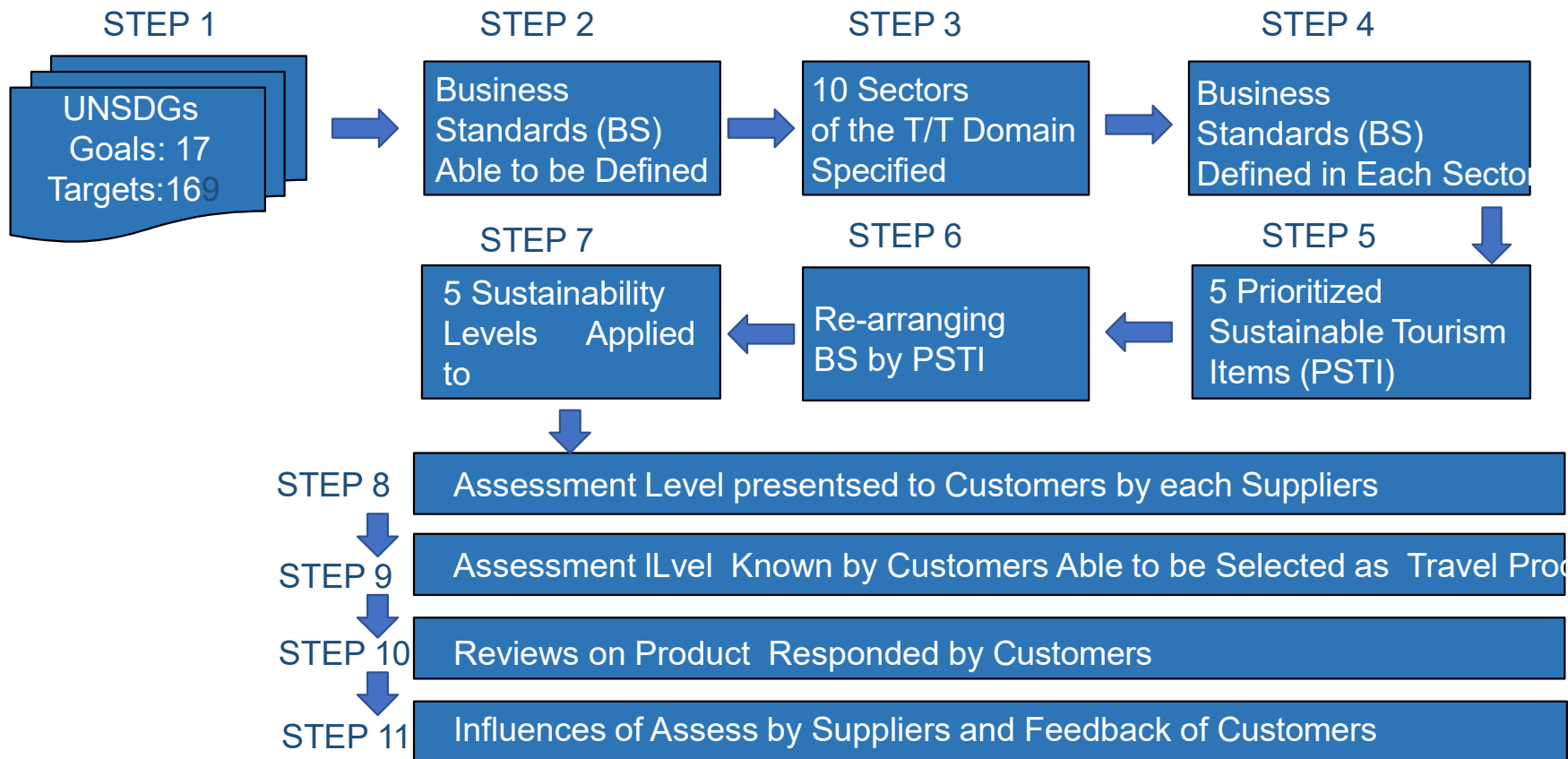
- プロジェクト： 持続可能な観光のためのビジネス基準
- 副議長のサポート： Ian Watt
- ドメインコーディネーター： Sachin Mehta
- プロジェクトリーダー： Tunghua TAI
- プロジェクトの目的：
 - 国連の SDG のいくつかは観光産業に応用されています。観光は、世界的にも地域的にも、地域社会、天然資源、気候、経済に深刻な悪影響を与える可能性があります。宿泊サービス（宿泊施設）などにも同様のことが当てはまります。このプロジェクトの目的は、持続可能な観光を明確に定義し、何が持続可能な観光とみなされるのか、何がそうでないのかのパラメーターを設定することです。
- **Project status: Launch: 2019 April 01; Respond to Public Review by 2023-June-05; Publication (Plenary) 2023-Nov-10**
- 次のステップ：
 - プロジェクトの成果物は次のとおりです。 1: 持続可能な観光の定義、基準、ガイドラインを含むホワイトペーパー: 持続可能な観光のためのビジネス標準の技術的適用

旅行・観光部門

- **PROJECT:** 持続可能性を主張する EPs技術仕様の API 変換
- **Supporting VC's:** Ian Watt
- **Domain Coordinator:** Sachin Mehta
- **Project Lead:** Sachin Mehta
- **PROJECT PURPOSE:**
 - 体験プログラム技術仕様プロジェクト (P1082) は 2022 年 10 月に完了し、観光業界の一部のメンバーは、体験プログラム (EPs) を大量に取引するために、新しく構築された UN/CEFACT の技術仕様に基づいて成果物を API 形式に変換することを期待しています。軽くてスマートフォンも使いやすくなりました。そこで本プロジェクトでは、EPの取引利用にAPIを適用し、EPの取引の円滑化を支援するとともに、EPの取引時にSDGsや関係者の自己評価に基づく持続可能性情報を提供することを提案する。サプライヤーを買い手に引き継ぎ、購入しようとしている EP の持続可能性目標のレベルを理解してもらうことができます。持続可能性情報に必要な BIE は、持続可能な観光プロジェクトのためのビジネス基準 (P1078) またはその後継プロジェクトの成果物から抽出できます。この情報は購入者によって確認され、体験後にコメントされる可能性があります。この購入者のフィードバック情報は、業界の持続可能性の向上に貢献する可能性があります。
- **Project Status: Launch: 2023-04-01, C Completion: 2024-01-31, Publication (Plenary) : 2024-05-31**
- **次のステップ:**
 - UN/CEFACT の開発手順に基づいて作業します
 - 各分野は独自のビジネス標準を定義しています
 - 既存のBRSの見直し
 - API 変換を完了するために段階的に作業します

持続可能性を主張する EPs 技術仕様の API 変換

- Overview of Steps to Assess by Suppliers and Feedback of Customers



旅行・観光部門

- **PROJECT:** 旅行会社とDMC&DMOパッケージツアープロジェクト
- **Supporting VC's:** Ian Watt
- **Domain Coordinator:** Sachin Mehta
- **Project Lead:** Tunghua TAI
- **Project Purpose:**
 - このプロジェクトにより、旅行会社（主に中小企業）と商品手配会社（DMC）および観光協会等の観光地域づくり法人（DMO）の間でツアー パッケージ データを交換するために使用されている現在の電子メールとスプレッドシートを、調和されたデータとコメントに置き換えることができます。（下図の赤い矢印を参照）。これにより、追加のセマンティック データ定義が CCL に提供され、RDM は標準化された API を作成する機能を確立します。
- **Project status: Launch: 2023-May-08; Completion 2024-Sep-30; Publication (Plenary) 2024-Nov-30**
- **次のステップ:**

プロジェクトの成果物は次のとおりです。

旅行会社、商品手配会社（DMC）、および観光協会等の観光地域づくり法人（DMO）をカバーする参照データ モデル（RDM）および API 仕様。

その他の関連するリファレンス データ モデル（RDM）および API 仕様が開発され、関連する情報も含まれる。



UN/CEFACT の今後のイベントの日付を保存してください

- 第29回国連/CEFACT本会議、2023年11月9～10日、ジュネーブ
- 循環経済における持続可能なバリューチェーンの環境、社会、ガバナンスのトレーサビリティに関する専門家チームの第3回セッション、2023年11月23日、ジュネーブ
- 第42回UN/CEFACTフォーラム、2024年4月29日～5月1日、ジュネーブ
- 第30回国連/CEFACT本会議、2024年5月2日～3日、ジュネーブ
- 国連/LOCODE諮問グループ会議、2024年5月6～7日、ハンブルク





第41回 UN/CEFACT バンコク・フォーラム報告

終わり

JTREC
板垣 和芳